3

コマンドラインコンソール機能の使い方

ここでは、コマンドラインコンソール機能について説明します。

接　続

コマンドラインコンソール機能を使用するためには、初めに管理用コンソール（パーソナルコンピュータなど）をマネジメントポートに接続する必要があります。

マネジメントポートとの接続

EMカードにはマネジメントポートとして、シリアルポートとネットワークポート（100BASE-TX/10BASE-T）の2つのインタフェースを持っています。

重要

- **マネジメントネットワークの接続は、EMカード前面のマネジメントLANコネクタを接続してください。EMカードを二重化してご利用の場合は、双方のEMカードにそれぞれ接続してください。**
- **EMカードのネットワークポートはジャンボフレームに対応していません。**
  EMカードが接続されるネットワークではジャンボフレームを有効にしないでください。

ヒント

マネジメントポートはEMカードの初期セットアップや保守の際に接続します。

シリアルポート経由の接続

シリアルポートには、EMカードの基本的な設定を行うための管理用コンソール（パーソナルコンピュータなど）を接続します。購入後、初めて使用するときは、管理用コンソールの接続が必要です。

管理用コンソールとして使用するパーソナルコンピュータなどの端末には、VT-100準拠の通信ソフトウェアが必要です。

通信ソフトウェアは次の設定にします。

- 通信速度　：115200bps
- データ長　：8ビット
- パリティ　：None
- ストップビット　：1ビット
- フロー制御　：None

重要

シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。

ネットワークポート経由の接続

接続にはTELNETまたはSSH(パスワード認証)を使用します。TELNET/SSHでEMカードにログインするためのIPアドレスは、シリアルポート経由の接続で事前に設定したものを指定します。

デフォルトのIPアドレスは、192.168.1.8/24 となっております。このアドレスが使用可能であるローカルなネットワークに接続して、IPアドレスの設定などを行うことも可能です。ただし、IPアドレスを変更した時点でネットワーク接続は切断されます。また、5章の「SIGMABLADEモニターの使い方」からもIPアドレスの設定をすることができます。

マネジメントネットワークの接続は、EMカード前面のマネジメントLANコネクタを接続してください。

初期設定

シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続から、ブレード収納ユニットに搭載されたEMカードやCPUブレード、他の搭載モジュールの初期設定を行います。(シリアルポート経由の接続およびネットワークポート経由の接続、設定は「接続」を参照してください。)

チェック

- "Administrator"の初期パスワードは"Admin"です。セキュリティ確保のため、初期パスワードは速やかに変更することを推奨します。
- 初期設定は"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザで行ってください。また、一部の初期設定は"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザで行ってください。
- 初期設定はアクティブEMカード(現用系のEMカード)から行ってください。(アクティブEMカードについての詳細は「EMカード」(47ページ)を参照してください。)
- EMカードのIPアドレスの初期値は192.168.1.8～11(サブネットマスク: 255.255.255.0)です。(ご購入後、初期設定のために、ネットワークポート経由の接続から、初めてEMカードに接続する場合は、192.168.1.8に接続します。(設定変更していない場合))

日時設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   − **日時設定の変更**(NTP機能使用しない場合、必須)

   本EMカードの日時を設定する。

   SET DATE <MMDDhhmm({CC}YY)>　<タイムゾーン>

   ※ MM:月 DD:日 hh:時間 mm:分 CCYY:年(西暦)
   ※ タイムゾーン:「付録」(218ページ) の「タイムゾーン」を参照。初期値は"JST"。

   − **NTPサーバの設定**

   (NTP機能使用時、プライマリNTPサーバの設定およびENABLE NTP必須。セカンダリNTPサーバの設定は任意。)

   本EMカードが参照するNTPサーバを設定する。

   なお、この設定を行う前に「ネットワーク設定(EMカード)」(29ページ) を完了している必要があります。

   (それぞれのコマンドを実行してから再度プロンプトが表示されるまで約5秒の時間がかかります。)

   SET NETWORK NTP PRIMARY <プライマリNTPサーバアドレス>
   (SET NETWORK NTP SECONDERY <セカンダリNTPサーバアドレス>)

   SET TIMEZONE <タイムゾーン>

   ※ タイムゾーン:「付録」(218ページ) の「タイムゾーン」を参照。初期値は"JST"。

   ENABLE NTP

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   日時設定を変更した場合「SHOW DATE」コマンドを実行する。

   NTPサーバを設定した場合は「SHOW NETWORK」コマンドを実行する。

5. 必要に応じて、EMカードを再起動する。(EMカードの再起動の方法は「コマンド仕様」の「RESTART EM」を参照してください。)

「SET DATE」コマンドまたは「SET TIMEZONE」コマンドによるタイムゾーンの設定変更後は、EMカードの再起動が必要です。(設定変更内容は、EMカードの再起動後に反映されます。)
EMカードが2枚搭載されている場合、再起動は2枚とも行う必要があります。

以上で完了です。

ユーザ設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   − **Administratorのパスワード変更**(強く推奨)

   管理者のパスワードを変更する。
   パスワードは3～8文字の英数字で設定することができます。
   Administratorのパスワードは忘れないように注意してください。
   パスワードを忘れた場合、パスワードリカバリが必要です。(パスワードリカバリの方法は「パスワードリカバリ」(46ページ)を参照してください。)

   SET PASSWORD
   New Password : ******** (パスワードを入力)
   Confirm : ******** (同じパスワードを入力)

   − **通常ユーザの登録**(ユーザ追加時、ADD USERは必須。FULLNAME設定は任意。)

   適宜、通常ユーザのアカウントを登録する。

   ADD USER <ユーザ名（13文字以内）>
   New Password : ******** (パスワードを入力)
   Confirm : ******** (同じパスワードを入力)

   SET USER FULLNAME <ユーザ名> <フルネーム（32文字以内）>

   − **通常ユーザのアクセス権**(任意)

   通常ユーザのアクセス権を設定する。(通常ユーザのアクセス権の初期値はUSERです。)

   SET USER ACCESS <ユーザ名> [ADMINISTRATOR ¦ OPERATOR ¦ USER]

   2台のEMカードを搭載している場合、アクティブEMカードから"Administrator"および通常ユーザのパスワードを設定すると、スタンバイEMカードにも自動的に同じ値が設定されます。(アクティブEMカードについての詳細は「EMカード」(47ページ)を参照してください。)

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   ユーザの追加、アクセス権の変更を行った場合「SHOW USER <ユーザ名>」コマンドを実行する。

   以上で完了です。

ラック設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   − **ラック名**(必須(通報処理のため))

   本EMカードが搭載されるラックの名称を設定する。(32文字以内)
   (ラックを識別できるユニークな名称をご自由に設定してください。)

   SET RACK NAME <ラック名>

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」(70ページ)を参照してください。)

   ブレード収納ユニットの名称またはブレード収納ユニットの資産番号を設定した場合は「SHOW ENCLOSURE INFO」コマンドを実行する。

ラック名は、ブレード収納ユニット間接続機能を有効にした場合、最も下側のブレード収納ユニットに設定された値で上書きされます。また、ブレード収納ユニット間接続機能を有効にした状態で変更した場合、変更された値はブレード収納ユニット間接続で接続された全てのブレード収納ユニットに反映されます。
なお、変更はブレード収納ユニット間接続で接続されたブレード収納ユニットのいずれからも行うことができます。

以上で完了です。

ブレード収納ユニット設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目をブレード収納ユニットについて設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   - **ブレード収納ユニット名**(必須(通報処理のため)　ただし初期値のままでも良い。)

     本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの名称を設定する。(32文字以内)
     (ブレード収納ユニットを識別できるユニークな名称をご自由に設定してください。)

     SET ENCLOSURE NAME <ブレード収納ユニット名>

   - **ブレード収納ユニット資産番号**(任意)

     本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの資産番号を設定する。(32文字以内)
     (ブレード収納ユニットの資産番号(例えば、お客様の所属される会社・団体等において資産管理のために設定されている番号)をご自由に設定してください。)

     SET ENCLOSURE ASSET TAG <資産番号>

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   ブレード収納ユニットの名称またはブレード収納ユニットの資産番号を設定した場合は「SHOW ENCLOSURE INFO」コマンドを実行する。

   以上で完了です。

ネットワーク設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. ネットワークの構成を決定する。

- 設定する各種IPアドレスは、接続するネットワークで利用可能か、あらかじめ確認してください。設定後、IPアドレス、サブネットマスクの設定が不明となった場合はシリアルポート経由の接続または「SIGMABLADEモニター」から設定しなおしてください。
- 設定する各種IPアドレスは、接続するネットワークで使用可能なサブネットを持った値に設定してください。EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールのIPアドレスは、共通のサブネットマスクを設定する必要があります。あらかじめサブネットが共通であるIPアドレスをご用意ください。
- 設定する各種IPアドレスは、接続するネットワーク上のネットワーク機器と同一のIPアドレスでないことをあらかじめ確認してください。
- ブレード収納ユニットに取り付けたモジュールが、同じIPアドレスにならないように設定してください。対象のモジュールの電源がOFFのままブレード収納ユニットを運用する場合でも、ブレード収納ユニットに取り付けられたすべてのモジュールのIPアドレスが同じ値をとらないようにする必要があります。(特に、DHCP機能によらずIPアドレスをモジュール別に設定する場合は、注意が必要です。また、ご購入後初めてご利用される状態では、すべて同じIPアドレスが設定されているモジュールがあります。この場合、同じIPアドレスにならないように設定しなおす必要があります。)
- EMカード、CPUブレード/スイッチモジュールのマネジメントLAN用のIPアドレスは、開始IPアドレスを設定すると自動的に連続した値が割り当てられます。自動的に割り当てられるIPアドレスの一部または全部がEMカードとCPUブレード/スイッチモジュールで同一の値をとらないように注意してください。また、開始IPアドレスだけでなく、自動的に割り当てられるIPアドレスも適切な範囲であることをあらかじめ確認してください。
- フローティングIPは、EMカードのアクティブ(現用系)/スタンバイ(待機系)の状態によって動的に切り替わるIPアドレスです。EMカードの物理的な搭載位置によらず、当該EMカードがアクティブであればフローティングIP(アクティブEM)が、当該EMカードがスタンバイであればフローティングIP(スタンバイEM)が割り当てられます。EMカードの障害発生や「FORCE TAKEOVER」コマンド等により、EMカードのアクティブ/スタンバイが切り替わった場合は、フローティングIPも自動的に切り替わります。フローティングIPをご利用になることで、EMカードの物理的な搭載位置を意識することなく、アクティブEM(またはスタンバイEM)をご利用になることができます。(アクティブEMカード等についての詳細は「EMカード」(47ページ)を参照してください。)
- 固定IPアドレス(EMカードスロット1/2)は、EMカードの物理的な搭載位置によって決まるIPアドレスです。(左側がEMカードスロット1、右側がEMカードスロット2です。) 固定IPアドレスはEMカードのアクティブ/スタンバイの状態に影響されません。
- EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールに対して以下のIPアドレスを割り当てることはできません。

  ..*.0, *.*.*.255 (* は任意)

ヒント SNMPエージェント機能、およびDianaScopeやESMPRO/SM（Ver.5以降）との連携は、「固定IP」で動作します。

ー　構成例

（以下は一例です。各種IPアドレスやサブネットマスクはお客様の環境にあった設定をしてください。）

① EMカードのネットワーク構成

フローティングIP（アクティブEM）	192.168.1.4
フローティングIP（スタンバイEM）	192.168.1.5
固定IPアドレス（EMカードスロット1）	192.168.1.6
固定IPアドレス（EMカードスロット2）	192.168.1.7

連続する4個のIPアドレス（フローティングIP(アクティブEM)のIPアドレスを指定

② CPUブレード（スロット1～16）のネットワーク構成

スロット1	192.168.1.8
スロット2	192.168.1.9
スロット3	192.168.1.10
スロット16	192.168.1.23

③ スイッチモジュール（スロット1～8）のネットワーク構成

スロット1	192.168.1.24
スロット2	192.168.1.25
スロット3	192.168.1.26
スロット8	192.168.1.31

連続する24個のIPアドレス（CPU ブレード（スロット1）のIPアドレスを指定

④ サブネットマスク・ゲートウェイの設定(EMカード、CPUブレード、スイッチモジュール共通)

サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.99

⑤ DNSサーバの構成(EMカード、CPUブレード、スイッチモジュール共通)

プライマリDNS	192.168.1.111
セカンダリDNS	192.168.1.123

4. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

ネットワークポート経由の接続からCLIを利用している場合、EMカードのIPアドレスを変更するとネットワークポート経由の接続とEMカードとの接続が切断されます。ネットワークポート経由の接続の端末エミュレータの接続先IPアドレスの設定をEMカードの新しいIPアドレスに変更してから、ログインしなおしてください。(EMカードの新しいIPアドレスによっては、ネットワークポート経由の接続や他のネットワーク機器のネットワーク設定をあらかじめ適切な値に設定しておく必要があります。)

－　**各IPアドレス設定**(必須)

各EMカード、CPUブレード/スイッチモジュールのネットワークを設定する。
(コマンドを実行してから再度プロンプトが表示されるまで約5秒の時間がかかります。)

SET NETWORK ADDRESSRANGE <フローティングIP(アクティブEM)のIPアドレス> <CPUブレード（スロット1）のIPアドレス>　<サブネットマスク>

(例) SET NETWORK ADDRESSRANGE 192.168.1.4 192.168.1.8 255.255.255.0

DianaScopeまたはESMPRO/SM (Ver.5以降) をご利用の場合は、<フローティング IP(アクティブ EM)> の第四オクテットを 4 の倍数 (例えば、192.168.1.4や192.168.1.8)で指定する必要があります。

- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドによりフローティングIP(アクティブEM)を指定することで、フローティングIP(スタンバイEM)、固定IPアドレス(EMカードスロット1)および固定IPアドレス(EMカードスロット2)のIPアドレスが自動的に連続する値に設定されます。(4個の連続するIPアドレスをあらかじめご用意ください。)
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドによりCPUブレード(スロット1)のIPアドレスを指定することで、CPUブレード(スロット2～16)およびスイッチモジュール(スロット1～8)のIPアドレスが自動的に連続する値に設定されます。(24個の連続するIPアドレスをあらかじめご用意ください。ここで連側する値とは、10進数で連続するものを意味します。例えば、"10.0.0.254"と"10.0.0.255"は連続する値ですが、"10.0.0.255"と"10.0.1.0"は(2進数では連続するものの10進数では)連続しない値です。)
- モジュールによっては、DHCPクライアント機能に対応していない、または無効に設定されているものがあります。DHCPクライアント機能に対応していない、または無効に設定されている場合、「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドで設定したIPアドレスがモジュールに設定されません。この場合は、モジュール側で個別にIPアドレスを設定するか、DHCPクライアント機能が無効である場合は有効にしてください。(詳しくは、各種モジュールのユーザーズガイドを参照してください。また、IPアドレスを設定する必要がないモジュールもあります。)
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドで設定したIPアドレスをモジュールが取得するのに数分程度の時間が必要となる場合があります。設定したIPアドレスをモジュールが取得しているかは、CPUブレードについては「SHOW SERVER LIST」コマンドから、スイッチモジュールについては「SHOW SWITCH INFO」コマンドから確認することができます。(それぞれのコマンドについては、「コマンド仕様」を参照してください。)
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドによる本DHCP機能でCPUブレードやスイッチモジュールに設定されたIPアドレスは、それが反映されるまでに数分程度の時間がかかる場合があります。
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドで搭載モジュールのIPアドレスの設定を行った後に、搭載モジュール側のDHCPクライアント機能の有効/無効の設定を変更してから搭載モジュールに設定が反映されるまでに、数分程度の時間が必要となる場合があります。しばらくしても設定が反映されない場合は、CLIの「RESTART EM」コマンドを実行してEMファームウェアを再起動させてください。
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドで各種モジュールに割り当てられるIPアドレスはマネジメントLANで有効です。ユーザLANでのIPアドレスの設定は各種ブレードおよびスイッチモジュールのユーザーズガイド等をご覧ください。
- 「SET NETWORK ADDRESSRANGE」コマンドで設定したIPアドレスは、対応するスロットにモジュールを搭載しない場合や、搭載するモジュール自体がIPアドレスを設定しない場合は、スロットに対してIPアドレスが予約された状態になります。予約されたIPアドレスと同じIPアドレスを他のネットワーク機器には設定しないことを推奨します。
- スルーカードは、通常IPアドレスを設定する必要のないモジュールです。(スルーカードの種類によっては本書とは異なる仕様が記載されている場合があります。その場合は、各種CPUブレードのユーザーズガイド・取扱説明書等の記載を優先してください。)

－ **デフォルトゲートウェイの設定(デフォルトゲートウェイ利用時は必須)**

デフォルトゲートウェイを設定する。
（コマンドを実行してから再度プロンプトが表示されるまで約5秒の時間がかかります。）

SET NETWORK GATEWAY <ゲートウェイIPアドレス>

(例) SET NETWORK GATEWAY 192.168.1.99

デフォルトゲートウェイは、EMカード、CPUブレードおよびスイッチモジュールで共通です。

－ **DNSの設定**(1つ以上のDNSサーバの登録がDNS機能利用時は必須)

DNSサーバの登録を行う。
初期状態では先に設定したDNSサーバがプライマリとなる。
(「REMOVE NETWORK DNS」コマンドで指定した登録DNSサーバを削除することが可能です。プライマリを削除後「ADD NETWORK DNS」コマンドを実行するとプライマリに、セカンダリを削除後「ADD NETWORK DNS」コマンドを実行するとセカンダリに設定されます。プライマリとセカンダリの両方を削除した後「ADD NETWORK DNS」コマンドを実行するとプライマリ、セカンダリの順に設定されます。「REMOVE NETWORK DNS」コマンドについては「コマンド仕様」を参照してください。)

(ADD NETWORK DNS <プライマリDNSサーバ>)
(ADD NETWORK DNS <セカンダリDNSサーバ>)

(例)

ADD NETWORK DNS 192.168.1.111
ADD NETWORK DNS 192.168.1.123

5. CLIより以下のコマンドを実行し、設定項目が変更されているかを確認する。

   ネットワーク設定を「SHOW NETWORK」コマンドを用いて確認する。

6. 必要に応じて、EMカードを再起動する。(EMカードの再起動の方法は「コマンド仕様」の「RESTART EM」を参照してください。)

EMカードの再起動中は、モジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをしないでください。途中でモジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをするとアップデートが完全に行われないばかりか、装置が正常に動かなくなるおそれがあります。また、搭載モジュールのIDランプのON/OFF操作をしないでください。適切にIDランプが点灯・消灯しない場合があります。

デフォルトゲートウェイおよびDNSの設定変更後は、EMカードの再起動が必要です。(設定変更内容は、EMカードの再起動後に反映されます。)
EMカードが2枚搭載されている場合、再起動は2枚とも行う必要があります。

以上で完了です。

SNMP設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続CLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   - **コミュニティ名の設定**

     (SNMP機能利用時、ライト動作設定は必須。リード／トラップ動作設定は任意。)
     各種コミュニティ名を設定する。(コミュニティ名の初期値はリード／ライト／トラップ動作ともに"public"です。)

     SET SNMP COMMUNITY READ <リード動作を許可するコミュニティ名>
     SET SNMP COMMUNITY WRITE <ライト動作を許可するコミュニティ名>
     SET SNMP COMMUNITY TRAP <トラップ動作を許可するコミュニティ名>

   - **コンタクト名の設定**(任意)

     SNMPコンタクト名を設定する。
     (SNMPでのコンタクト先(例えば、本製品を搭載したラックを設置しているサーバ専用室の所在地)をご自由に設定してください。)

     SET SNMP CONTACT <コンタクト名>

   - **位置情報の設定**(位置情報をESMPRO/ServerManager上で正しく表示するには必須)

     ブレード収納ユニットの位置情報を設定する。
     <ブレード収納ユニットのラック内の位置>および<ラックの高さ>は単位Unit(数字)で指定する。

     SET SNMP LOCATION <LOCATION名>
     SET SNMP LOCATION ENCLOSURE <ブレード収納ユニットのラック内の位置>
     SET SNMP LOCATION RACKHEIGHT <ラックの高さ>

   - **SNMPトラップの通知先の指定**

     (SNMP機能利用時、1つ以上のトラップ通知先のIPアドレスの設定が必須)
     SNMPトラップの通知先を指定する。
     最大3つまで指定可能。

     ADD SNMP TRAPRECEIVER <トラップ通知先IPアドレス>

   - **TrapACK機能の有効化**(任意)

     TrapACK機能(SNMP Trapに対するAckを待つ機能)を有効化する。

     ENABLE SNMP TRAPACK

- 「SHOW NETWORK」コマンドを実行することでSNMP機能が有効であるか確認することができます。(SNMP機能は初期状態で有効です。) SNMP機能が無効である場合は「ENABLE SNMP」コマンドを使用してSNMP機能を有効に設定し直してください。(各コマンドについて、詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)
- TRAPRECEIVER で設定するトラップ通知先は、ESMPRO/ServerManager などのようにTrapack機能に対応している必要があります。対応していない通知先を登録した状態で TrapAck 機能を有効にした場合、同じトラップが複数回発行されます。

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   設定項目を変更した場合「SHOW SNMP」コマンドを実行する。
   SNMP のテストを行う場合「TRAPTEST」コマンドを実行する。(ESMPRO/ServerManagerをご利用の場合、ESMPRO/ServerManagerに「通報テスト　通報テストを行いました」と表示されることで確認できます。)

   以上で完了です。

ユーザに対するモジュールアクセス権の設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   － **モジュールへのアクセス権の設定**(任意)

   ユーザのCPUブレードおよびスイッチモジュール／スルーカードへのアクセス権を設定する。(あらかじめ、設定する対象モジュールのスロット番号を確認してください)

   ASSIGN [SERVER ¦ SWITCH] [<スロット番号> ¦ <スロット番号> - <スロット番号> ¦ <スロット番号> , <スロット番号> ¦ ALL] <ユーザ名>

   <スロット番号>と<スロット番号>を’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)で連結する場合、’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

   － **EMカードへのアクセス権の設定**(任意)

   ユーザのEMカードへのアクセス権を設定する。

   ASSIGN EM <ユーザ名>

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。

   設定したユーザからモジュールのIDランプのON/OFF操作を行う。(操作は「コマンド一覧」を参照してください。)

   － **モジュールのIDランプのON/OFF**

   CPUブレードおよびスイッチモジュール／スルーカードのIDランプのON/OFFを行う。(あらかじめ、設定する対象モジュールのスロット番号を確認してください)

   SET [SERVER ¦ SWITCH] UID <スロット番号> [ON ¦ OFF]

   － **EMカードのIDランプのON/OFF**

   EMカードのIDランプのON/OFFを行う。
   (<スロット番号>省略時はログインしているEMカードに対する操作となります。)

   SET EM UID <スロット番号> [ON ¦ OFF]

   以上で完了です。

電源ユニット設定(EMカード)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。電源制御ポリシーおよび電源冗長モードについての詳細は「マネジメント機能」(5ページ)を参照してください。)

   − **電源制御ポリシーの設定**(必須)

   本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの電源制御ポリシーを設定する。次項の電源冗長モードの設定を「電源非冗長モード」にする場合は、「CPU性能モード」を設定する。

   PERFORMANCE：CPU性能モード(冗長が維持できない状態においても、電力使用を優先する)
   REDUNDANCY　：冗長維持モード(電力の冗長を維持する)
   RECOVERABLE ：冗長回復モード(電力の冗長を回復する)

   SET POWER POLICY [PERFORMANCE ¦ REDUNDANCY ¦ RECOVERABLE]

   − **電源冗長モードの設定**(必須)

   本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの電源冗長モードを設定する。

   AC：AC二重化モード(N+N冗長)
   POWERSUPPLY：個別電源冗長モード(N+1冗長)
   NONE: 電源非冗長モード

   SET POWER REDUNDANCY [AC ¦ POWERSUPPLY ¦ NONE]

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   「SHOW POWER」コマンドを実行する。

5. AC電源を一旦OFFにしてから、再度AC電源をONにしてください。(AC電源ON/OFFの方法は「ブレード収納ユニットの電源ON/OFF」を参照してください。)

電源制御ポリシーおよび電源冗長モードは、AC電源の再投入を行った後に反映されます。

以上で完了です。

DianaScope Gateway 設定(EMカード)

DianaScope ManagerまたはESMPRO/SM（Ver.5以降）を使用する場合は、EMカード側でDianaScope Gatewayのユーザパスワードを以下の手順であらかじめ設定する必要があります。DianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）では、サーバ登録時に認証キーが必要です。また、登録するサーバのIPアドレスには、EMカードの固定IPアドレスを指定してください。(EMカードの固定IPアドレスについては、「ネットワーク設定(EMカード)」を参照してください。DianaScopeおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）の運用については、これらのソフトウェアのドキュメントを参照してください。）

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしてください。）
3. CLIよりコマンドを実行して以下の項目を設定する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。）

   − **DianaScope Gatewayのパスワードの設定(DianaScopeおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）使用時必須)**

   本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットのDianaScope Gateway のパスワードを設定する。(このパスワードはDianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）で認証キーとして使用する。）
   パスワードは16文字以内の英数字で設定することができます。(パスワードの初期値は"guest"です。）

   SET　DSGPASSWORD <パスワード>

4. CLIより以下のコマンドを実行して設定項目が反映されていることを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。）

   「SHOW DSGPASSWORD」コマンドを実行する。

   「SHOW DSGSTATE」コマンドを実行することでDianaScope Gateway対応が有効であるか確認することができます。(DianaScope Gateway対応は初期状態で有効です。） DianaScope　Gateway対応が無効である場合は「SET DSGSTATE」コマンドを使用してDianaScope Gateway対応を有効に設定し直してください。(各コマンドについて、詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。）

   以上で完了です。

   なお、変更したパスワードはEMカードを(EMカードが2枚実装されている場合は2枚とも)再起動した後に有効になります。ただし、EMファームウェア レビジョン14.xx以降をお使いの場合は、変更は即座に反映され、再起動の必要はありません。

各種設定(CPUブレード)

CPUブレードのユーザーズガイド・取扱説明書等を参照してください。

スイッチモジュール／スルーカードへのコンソール接続

以下の手順で、EMカードを経由してスイッチモジュール／スルーカードにコンソールを接続することができます。接続後は接続先スイッチモジュールのコンソール仕様によります。(スイッチモジュール／スルーカードに直接コンソールを接続した場合と同じ仕様です。) 接続後は各種スイッチモジュールのユーザーズガイドを参照して、各種設定を行ってください。
なお、接続できないまたは接続する必要のないスイッチモジュール／スルーカードもあります。詳しくは、各種スイッチモジュール／スルーカードのユーザーズガイドを参照してください。

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIからログインしていることを確認する。(ログインしていない場合はログインしてください。)
3. CLIよりコマンドを実行してスイッチモジュールに接続し、各種設定を行う。(接続後の操作について、詳しくは「コマンド仕様」および接続先のスイッチモジュールのユーザーズガイドを参照してください。)

－　スイッチモジュールへのコンソール接続

CONNECT SWITCH <スイッチモジュール番号>

スルーカード／スイッチモジュールの種類によっては本書とは異なる仕様が記載されている場合があります。その場合は、スルーカード／スイッチモジュールのユーザーズガイド・取扱説明書等の記載を優先してください。

以上で完了です。

各種設定(スイッチモジュール／スルーカード)

スイッチモジュール／スルーカードのユーザーズガイドを参照してください。

動作状態の確認

ブレード収納ユニットおよびブレード収納ユニットに搭載されるモジュールの動作状態を確認します。CLIでの動作状態の確認はシリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから行います。

ブレード収納ユニット

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のＣＬＩにログインしていることを確認する。(ログインしていない場合はログインしてください。)
3. CLIより以下のコマンドを実行する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

－　ブレード収納ユニット各種ステータスの確認

本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの各種ステータスを確認する。

SHOW ENCLOSURE STATUS

「Failed」の表示がある場合は該当モジュールが適切なスロットに取り付けられていることを確認してください。適切なスロットに取り付けられている場合は、再起動可能なモジュールは該当モジュールを再起動してください。再起動しても症状が改善されない場合は該当モジュールを交換してください。

－　ブレード収納ユニット搭載モジュールの状態および温度の確認

本EMカードが搭載されるブレード収納ユニット搭載モジュールの状態および温度を確認する。

SHOW ENCLOSURE TEMP

「Failed」の表示がある場合は該当モジュールが適切なスロットに取り付けられていることを確認してください。適切なスロットに取り付けられている場合は、再起動可能なモジュールは該当モジュールを再起動してください。再起動しても症状が改善されない場合は該当モジュールを交換してください。

以上で完了です。

FANユニット

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIにログインしていることを確認する。(ログインしていない場合はログインしてください。)
3. CLIより以下のコマンドを実行する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

－ FANユニットの状態の確認

本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットのFANユニットの状態を確認する。

SHOW ENCLOSURE FAN <FANユニット番号 | ALL>

「Failed」の表示がある場合はFANユニットが適切なスロットに取り付けられていることを確認してください。適切なスロットに取り付けられている場合は予備のFANユニットと交換してください。

以上で完了です。

電源ユニット

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIにログインしていることを確認する。(ログインしていない場合はログインしてください。)
3. CLIより以下のコマンドを実行する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

－ 電源ユニットの状態の確認

本EMカードが搭載されるブレード収納ユニットの電源ユニットの状態を確認する。

SHOW ENCLOSURE POWERSUPPLY <電源ユニット番号 | ALL>

「Failed」の表示がある場合は電源ユニットが適切なスロットに取り付けられていることを確認してください。適切なスロットに取り付けられている場合は予備の電源ユニットと交換してください。

以上で完了です。

EMファームウェアのアップデート

EMカードのファームウェア(EMファームウェア)をアップデートします。CLIでのEMファームウェアのアップデートはシリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから行います。

重要

- **EMファームウェアのアップデート中はEMカードに供給しているブレード収納ユニットのAC電源や無停電電源装置(UPS)等をOFFにしないでください。途中で電源がOFFになるとアップデートが完全に行われないばかりか、装置が正常に動かなくなるおそれがあります。**
- **EMファームウェアのアップデートおよびEMカードの再起動中は、モジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをしないでください。途中でモジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをするとアップデートが完全に行われないばかりか、装置が正常に動かなくなるおそれがあります。また、搭載モジュールのIDランプのON/OFF操作をしないでください。適切にIDランプが点灯・消灯しない場合があります。**

NEC 8番街で配布されるEMファームウェアを使用して、本装置のEMカードのファームウェアをアップデートすることができます。次のホームページに詳しい説明があります。

『弊社ホームページ』：http://www.nec.co.jp/products/pcserver/

EMファームウェアのアップデートを行う手順は本書をご覧ください。(ダウンロード時の説明事項およびダウンロードしたファイルにドキュメントファイルが添付されている場合は、これらもあわせてご確認ください。)

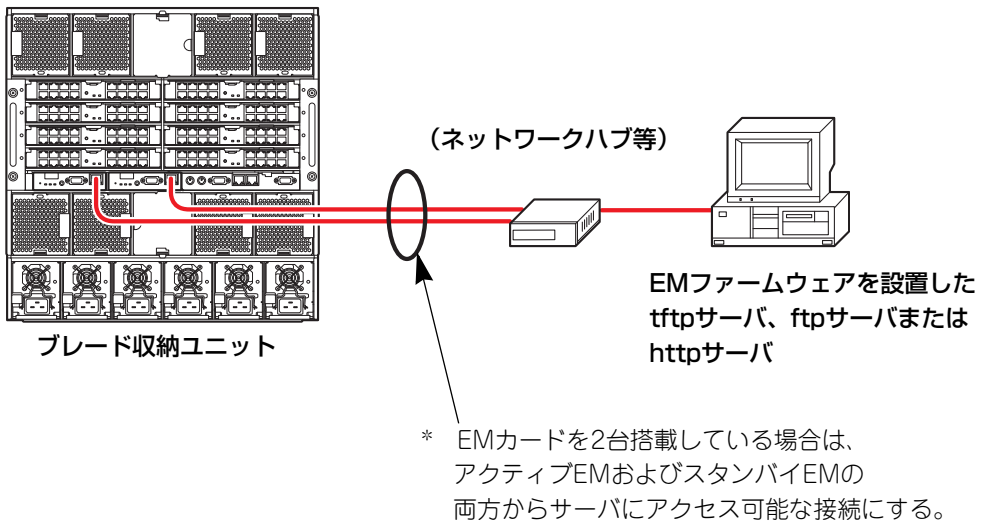
EMファームウェアイメージの設置

アップデートするEMファームウェアのイメージファイル(EMファームウェアイメージ)をあらかじめ設置する必要があります。EMカードからアクセス可能なtftpサーバ、ftpサーバまたはhttpサーバを準備し、EMファームウェアイメージを設置してください。

ヒント

- EMファームウェアイメージを設置するサーバにおいて、OSのファイアウォール機能またはファイアウォール機能を持ったソフトウェアを使用している場合は、該当するポートが利用可能な設定であることを確認してください。ftpサーバを利用する場合は、ftpサーバがパッシブモードに設定されていることを確認してください。
- EMファームウェアイメージを設置するサーバにおいて、DeploymentManager (DPM)がインストールされている場合、DPMのtftpサーバが既に動作している可能性があります。その場合、他のソフトウェアによるtftpサーバは正常に動作しない可能性があります。DPMのtftpサーバはWindowsサービスとして動作するため、管理ツールの「サービス」から停止をしてください。(DPMについてはDPMのユーザーズガイドを、OSの操作についてはOSの説明書等を参照してください。)
- tftpサーバを利用してConfig情報をバックアップする場合、tftpサーバ上のバックアップ先のフォルダにConfig情報を格納するファイルを作成し、EMカードからアクセスできる適切なアクセス権をあらかじめ設定する必要があります。(詳しくはtftpサーバソフトウェアの説明書等を参照してください。)
- 2台のEMカードを搭載している場合、両EMカードともにEMファームウェアイメージを設置するサーバにアクセスできる必要があります。

EMファームウェア設置サーバとの接続例



EMファームウェアのアップデート

チェック

- EMファームウェアのアップデートは"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザで行ってください。
- EMファームウェアのアップデートはアクティブEMカードから行ってください。(アクティブEMカードについての詳細は「EMカード」(47ページ)を参照してください。)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしていることを確認する。(ログインしていない場合は、"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザでログインしてください。)
3. CLIより以下のコマンドを実行してEMファームウェアのバージョンを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   アップデートしようとするEMファームウェアと同じバージョンか新しいバージョンのEMファームウェアがすでにインストールされている場合は、アップデートは必要ありません。

   －　EMファームウェアのバージョンの確認

   本EMカードのバージョンおよびEMファームウェアのバージョンを表示する。

   SHOW VERSION

4. CLIより以下のコマンドを実行してEMファームウェアをアップデートする。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

   EMファームウェアのアップデート作業にはしばらく時間がかかります。
   EMファームウェアのアップデート完了後、EMカードは自動的に再起動されます。
   (2台のEMカードを搭載している場合、スタンバイEMカードはEMファームウェアのアップデート中に必要に応じて自動的に再起動されます。)

   －　EMファームウェアのアップデート

   本EMカードのEMファームウェアをアップデートする。
   <URL指定>にはEMファームウェアイメージを設置したURL(tftp、ftp、http)を指定する。

   <URL指定>の例(ユーザホームからのパスを指定):
   "tftp://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"(tftpの場合)
   "ftp://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"(Anonymous ftpの場合)
   "ftp://<username>:<password>@<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"(ftp(ユーザ-パスワード)の場合)
   "http://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"(httpの場合)

   ※ <パス>はEMファームウェアイメージのファイル名を含む。
   (' "' (ダブルクォーテーション)でくくった範囲は大文字/小文字が区別されます。"tftp"、"ftp"、"http"は小文字で入力してください。)

   UPDATE IMAGE <URL指定>

5. EMカードが再起動された後で、シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIから"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORかOPERATORであるユーザでログインする。
6. CLIより以下のコマンドを実行して、EMファームウェアのアップデートが反映されていることを確認する。（詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。）

－　EMファームウェアのバージョンの確認

本EMカードのバージョンおよびEMファームウェアのバージョンを表示する。

SHOW VERSION

以上でEMファームウェアのバージョンアップは完了です。

パスワードリカバリ

シリアルポート経由の接続の操作により、"Administrator"のパスワードを初期パスワードに変更します。(本機能は"Administrator"のパスワードを忘れたときのみご利用ください。)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。

   重要

   EM二重化構成の場合、スタンバイEMカードを取り外してください。

2. アクティブ EMカード前面にシリアルケーブルをつなぐ。
3. EMカードをリセット(もしくはリブート)する。RESETスイッチを押下、または"RESTART EM"コマンドを実行する。
4. 以下のメッセージが出たら、リターンキーを押して止める。

   Hit any key to stop autoboot: 3

5. u-bootプロンプトで以下のように入力する。

```
em> setenv password_reset
em> setenv password_reset y
em> saveenv
Saving Environment to EEPROM...
em> boot
## Booting image at bfa00000...
        (以下省略)
```

   ヒント

   - 最初の「setenv password_reset」で"password_reset"をクリアします。
   - 次の「setenv password_reset y」が正常に実行された場合、エラーメッセージ等のメッセージが表示されることなく、u-bootのプロンプト(em>)が表示されます。

6. この後、EM FWの起動直後にAdministratorのパスワードが工場出荷状態にリセットされる。

   ヒント

   必要に応じて、取り外したスタンバイEMカードを元の位置に取り付けてください。

なお、上記5項の設定は自動的に解除されます。

以上で完了です。

EMカード

EMカードを交換します。EMカードは搭載しているブレード収納ユニットの電源がONの状態でも交換することができます。

1. 交換するEMカードを確認する。

重要

- １台のＥＭカードで運用の際は、あらかじめＥＭカードの設定情報がバックアップ済みであることを確認してください。設定情報をバックアップしていない場合は、設定情報のバックアップを実施してください。EMカードの設定情報のバックアップ／リストアの方法については、4章の「環境設定」－設定のバックアップ（329ページ）／設定のリストア（330ページ）、あるいは、5章の「システム設定」－EM設定のバックアップ（375ページ）／EM設定のリストア（377ページ）を参照してください。
- ブレード収納ユニットの電源がONの状態でEMカードを交換する場合は、すみやかに行ってください。EMカードを取り外したままの状態にしておくと冷却効率が低下するため、EMカードまたはEMカードブランクパネルを取り付けてください。また、EMカードが1台も搭載されていない状態ではシステムの障害を検出できません。すみやかに1台以上のEMカードを取り付けてください。
- EMカードの再起動中は、モジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをしないでください。途中でモジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをするとアップデートが完全に行われないばかりか、装置が正常に動かなくなるおそれがあります。また、搭載モジュールのIDランプのON/OFF操作をしないでください。適切にIDランプが点灯・消灯しない場合があります。
- 2台のEMカードを搭載している場合、EMカードの"Administrator"のパスワードは、2台のEMカードともアクティブEMカード(現用系のEMカード)のパスワードが自動的に設定されます。(同じパスワードがアクティブEMカード(現用系のEMカード)およびスタンバイEMカード(待機系のEMカード)に設定されます。したがって、スタンバイEMカードでは、設定変更を行わなくても、"Administrator"のパスワードは初期値"Admin"とは異なる場合があります。) 2台のEMカードが搭載されている状態で、EMカードの交換を行った場合は、交換前の状態におけるアクティブEMカードに設定されていたパスワードが自動的に交換用のEMカードに設定されます。

2. 交換するEMカードに接続されているケーブルをすべて外す。
3. 交換するEMカードを取り外す。(「EMカードの取り付け/取り外し」を参照してください。)
4. 交換するEMカードスロットに新しいEMカードを取り付ける。(「EMカードの取り付け/取り外し」を参照してください。)

   取り付けたEMカードの電源は自動的にONになります。
5. 取り付けたEMカードのSTATUSランプが正常(緑色点灯または点滅)であることを確認する。取り付けたEMカードがアクティブEMであった場合、EMカードのACTIVEランプがアクティブを示す表示(緑色点灯)であることを確認する。
6. 必要に応じて、取り付けたEMカードのConfig情報のリストアを行う。(ブレード収納ユニットにEMカードが2台搭載されている場合は自動的にConfig情報が引き継がれます。Config情報のリストアについては、初期設定の「EMカードの設定確認およびバックアップ･リストア」を参照してください。)

   以上で完了です。

チェック Config情報のバックアップ・リストアは"Administrator"またはアクセス権がADMINISTRATORであるユーザで行ってください。

ヒント Config情報のバックアップがない場合にはリストアは行えません。「初期設定」を参照して設定を再度行ってください。

また、EMカードスロット1に加えてEMカードスロット2に増設EMカードを搭載している場合、アクティブEMカード(現用系のEMカード)で障害が発生すると、自動的にスタンバイEMカード(予備系のEMカード)がアクティブに切り替わります。

重要
- **スタンバイEMカードでは多くの機能が制限されています。(詳しくは「コマンド一覧」を参照してください。) 通常はアクティブEMカードをご使用ください。**
- **アクティブEMカードからCLIによりConfig情報の設定を行うと、スタンバイEMカードにも同じConfig情報が自動的に設定されます。(ただし、アクティブEMカードとスタンバイEMカードのEMファームウェアのバージョンが異なる場合は、自動的に設定されない場合があります。)**
- **CLIにてアクティブEMカードからEMファームウェアのアップデートを行うと、スタンバイEMカードにも自動的にEMファームウェアのアップデートが行われます。**

EMカードのアクティブ/スタンバイは、EMカードのACTIVEランプで見分けることができます。EMカードがアクティブEMであった場合、EMカードのACTIVEランプがアクティブを示す表示(緑色点灯)となります。(詳しくは「ランプ表示」を参照してください。) また、以下の手順でEMカードのCLIよりEMカードのアクティブ/スタンバイを確認することができます。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

1. EMカードの電源がONになっていることを確認する。
2. シリアルポート経由の接続またはネットワークポート経由の接続のCLIからログインしていることを確認する。(ログインしていない場合はログインしてください。)
3. CLIより以下のコマンドを実行してアクティブ/スタンバイを確認する。(詳しくは「コマンド仕様」を参照してください。)

－　EMカードの各種ステータスの確認

本EMカードの各種ステータスを確認する。

SHOW EM STATUS

* Webコンソールでも同様にEMカードの各種ステータス確認が可能です。

以上で完了です。

コマンド入力仕様

CLI起動方法

起動方法

SIGMABLADE-H EMファームウェアは、以下のいずれかの手段でEMファームウェアへ接続（ログイン）し、CLIを起動する形態をとります。

方法1：シリアルポート経由の接続
方法2：Telnet経由
方法3：SSH経由

シリアルポート経由の接続

EMカードには、外部のPCから操作できることを目的にシリアルポートが装備されています。PC－EMカード間をシリアルケーブルで接続すると、EMファームウェアのシステムコンソールが表示されます。

シリアルケーブル接続パラメータ
シリアルケーブルは、クロスケーブルを使用してください。
転送速度　　：115200bps
データ長　　：8ビット
パリティ　　：None
ストップビット　：1ビット
フロー制御　　：None

シリアルポート経由の接続が成功すると、以下の画面が表示されます。ログインプロンプトよりCLI用ユーザアカウントでログインすることで、CLIが起動します。あらかじめ登録済のユーザ名および正しいパスワードを入力すると、CLI画面へログインすることができます。

```
NEC SIGMABLADE Enclosure Manager Version 01.00

1Z34AB7890 login: Administrator
Password:




NEC SIGMABLADE Enclosure Manager (01.00)



Type 'HELP' to display a list of valid commands.
Type 'HELP <command>' to display detailed information about a specific command.
Type 'HELP HELP' to display more detailed information about the help system.

1Z34AB7890(Administrator)>
```

シリアルポート経由の接続 接続画面（例）

Telnet/SSH経由

イーサネットを介して接続された外部PC－EMカード間において、TelnetまたはSSHを用いてEMファームウェアへ接続します。
接続が成功すると、以下の画面が表示されます。ログインプロンプトよりCLI用ユーザアカウントでログインすることで、CLIが起動します。

```
$ telnet 192.168.1.150
Trying 192.168.1.150...
Connected to 192.168.1.150 (192.168.1.150).
Escape character is '^]'.


NEC SIGMABLADE Enclosure Manager Version 01.00

1Z34AB7890 login: Administrator
Password:


NEC SIGMABLADE Enclosure Manager (01.00)

Type 'HELP' to display a list of valid commands.
Type 'HELP <command>' to display detailed information about a specific command.
Type 'HELP HELP' to display more detailed information about the help system.

No entry for terminal type "vt102";
using dumb terminal settings.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMファームウェア Telnet接続画面（例）

コマンド入力方法

基本方針

シリアルポート経由の接続またはTelnet/SSH経由でログインすることにより、コマンド入力が可能となります。

コマンド入力方法

表示されたプロンプトに続いて、本書で規定されたコマンドを入力してください。
正しいコマンドが入力されると、CLIはコマンドに応じた処理を実行します。
一行に指定できるコマンドは、同時に一つのみです。複数のコマンドを同時に指定することはできません。
コマンドによっては、いくつかの引数を指定することができます。コマンドと引数の間には、一つ以上の空白（ブランク）を挿入する必要があります。

コマンドフォーマット
＜コマンド＞ ＜第一引数＞ ＜第二引数＞ … ＜第ｎ引数＞

コマンド：

後続の引数に対する動作を指定します。

引数：

動作に対する目的語を引数として指定します。

複数の引数が指定可能です。引数には、固定パラメータ、可変パラメータ（IPアドレス、時間などの数値）、URLが指定可能です。

CLI は、指定されたコマンドに対して先頭行からコマンドをチェックします。一つのコマンド／引数を実行する条件が成立した時点で、CLI はコマンドを処理します。

数値指定
10進（0-9）で指定してください。

文字列指定
表示可能な半角英数字と一部記号（a-zA-Z、0-9、ブランク、’-’（ダッシュ）、’_’（アンダースコア））の組合せで指定してください。
URL指定の場合は、上記指定に加えて、’@’（アットマーク）、’:’（コロン）、’/’（スラッシュ）、’.’（ドット)も指定可能です。
空白を含む文字列を指定する場合は、その文字列の前後を’"’（ダブルクォーテーション）でくくってください。

IPアドレス指定
コマンドの種類により、IPアドレスを指定するものがあります。
IPアドレスの指定方法を以下に示します。

形式：###.###.###.###

###：10進1～3桁の範囲で指定します。

例："192.168.1.150"

範囲指定
コマンドの種類により、値の範囲を指定するコマンドがあります。
値の範囲を指定する場合は、値の範囲を’-’（ハイフン）で接続することで指定可能です。
値と’-’（ハイフン）の間には、一文字の空白を挿入してください。

例：1から9の場合

"1 - 9"

また、複数の指定を’,’（カンマ)で接続することもできます。
値と’,’（カンマ)の間には、一文字の空白を挿入してください。

例：1 と 5 を指定する場合

"1 , 5"

URL指定
コマンドの種類により、引数にURLの指定を必要とするコマンドがあります。
URLは、以下のフォーマットに従って指定してください。
(’"’（ダブルクォーテーション）でくくった範囲は大文字/小文字が区別されます。"http"、"ftp"、"tftp"は小文字で入力してください。)

http指定	: "http://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"
ftp指定（Anonymous ftp）	: "ftp://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"
ftp指定（ユーザ・パスワード）	: "ftp://<username>:<password>@<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"
tftp指定	: "tftp://<ホスト名(またはIPアドレス)>/<パス>"

※ <パス>はファイル名を含む。

CPUブレード番号指定
※ 複数のブレードスロットを占有するブレードでは、占有するスロットの内、最も小さい番号を指定してください。(搭載するモジュールの種類によっては上記とは異なる指定の場合があります。その場合は、各種モジュールについての記載または各種モジュールのユーザーズガイドの記載を優先してください。)

プロンプト
CLI のプロンプト仕様を以下に示します。

"[ブレード収納ユニット名]([ログインユーザ名]) >△ "

説明："["、"]" でくくられた中には、そこに記載している情報が格納されることを意味します。
"△" は、空白（ブランク）を示します。

EMカード名： 2つのEMカードスロットの個々のEMカードを識別するための名称。
ブレード収納ユニット名： ブレード収納ユニットにつけられた名称。
ログインユーザ名： EMカードにログインしたユーザアカウント名。

例：ブレード収納ユニット名 "Prototype" において、ユーザ "Administrator" でログインした場合のプロンプト。

```
Prototype(Administrator)>
```

EMファームウェア CLIプロンプト書式(例)

キー入力操作

プロンプト表示状態におけるキー入力操作について記載します。
通常のキー入力において、バックスペースキーによる入力データのクリアが可能です。

過去に入力したコマンドを容易に再実行できるように、ヒストリー機能をサポートします。なお、ヒストリー機能は、同一セッション内でのみ有効です。すなわち、一旦CLIを終了するまたはEMファームウェアを電源OFF・再起動すると、過去の履歴は消失します。

ユーザアカウント管理

概　要

SIGMABLADE-H EMファームウェア CLIでは、CLIを使用するユーザのアクセス範囲を管理します。
ユーザアクセス範囲を管理するため、EMファームウェアでは"ユーザアカウント"管理機能をサポートします。

既定ユーザ

既定ユーザとは、ユーザ管理情報の初期状態で使用可能なユーザを意味します。
SIGMABLADE-Hでは、以下のユーザが設定されています。

既定ユーザ一覧

ユーザ名	説　明
Administrator	Administratorユーザ

ユーザアカウント

システムの稼動環境、ユーザ要求に応じて、複数のユーザが作成可能です。
作成可能なユーザ数には上限があります。
アカウントの作成方法については、後述する「ユーザ管理コマンド」を参照してください。

アクセス権

上記作成したユーザに対してアクセス範囲を制御する "アクセス権" を設定することができます。
アクセス権は、その権限の大きさにより以下の3種類をサポートします。

指定可能なアクセス権一覧

ユーザ名	説　明
ADMINISTRATOR	システム管理者
OPERATOR	システム運用者
USER	一般ユーザ

本CLIは多くのコマンドをサポートしますが、コマンドの種類によって特定のユーザのみしか操作できない操作制限を設けています。

Administrator

EMファームウェア CLIでは、初期状態でシステム保守・運用管理を可能とするため、下記に示す規定ユーザを準備しています。

既定ユーザ
ユーザ名　　："Administrator"
アクセス権　："ADMINISTRATOR"
パスワード　：Admin
用途　　：システムの保守・運用管理

パスワードリカバリの方法は、「パスワードリカバリ」(46ページ)を参照してください。

CLI追加ユーザ

CLIコマンドにより、ユーザの追加・削除が可能です。
追加ユーザは、そのユーザのアクセス範囲に応じてアクセス権(ADMINISTRATOR or OPERATOR or USER)を与えることが可能です。
追加可能なユーザ数には制限があります。
追加可能ユーザ数　Max 30 ユーザ　※（工場出荷時に設定されるAdministratorを含む）

ユーザ名
ユーザ名として使用可能な文字列は、半角英数字と一部記号（a-zA-Z、0-9、’-’（ダッシュ）、’_’（アンダースコア））です。
ただし、先頭文字は半角英字のみ使用可能です。
ユーザ名の長さは、1文字以上、13文字以内にしてください。

同時接続
CLIでは、同時接続可能なセッション数が定められています。
セッション数の最大値は17 (1+16)です。
1 セッション：シリアルポート経由の接続からの操作
16セッション：CPUブレード台数

コマンド一覧

コマンド一覧

SIGMABLADE-H EMファームウェアでサポートするCLIコマンドの一覧を下表に示します。

「アクセス権」の意味

A：Administrator による操作が可能であることを意味する。
O：Operator による操作が可能であることを意味する。
U：User による操作が可能であることを意味する。

「EMカードのアクティブ/スタンバイ」の意味

A：アクティブEM（現用系）からの設定が可能であることを意味する。
S：スタンバイEM（待機系）からの設定が可能であることを意味する。

「バックアップ対象」の意味

○：Config情報でのバックアップ対象であることを意味する。
－：Config情報でのバックアップ対象でないことを意味する。

「備考」の補足

文末に"*"があるものは、Config情報のリストア後に必要な操作を意味する。

※ 本書ではEXPRESSSCOPEエンジンをBMC(Baseboard Management Controller)と記載します。
※ CPUブレード管理コマンドおよびスイッチモジュール管理コマンドには、一部のモジュールで対応してない場合があります。(各モジュールのユーザーズガイド等を参照してください。)

SIGMABLADE-H EMファームウェア CLIコマンド一覧

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
一般コマンド						
CLEAR SCREEN	A/O/U	画面をクリアする。	N/A	A/S	－	
EXIT	A/O/U	CLI を終了する。	N/A	A/S	－	
HELP	A/O/U	helpメッセージを表示する。	N/A	A/S	－	
HISTORY	A/O/U	コマンド入力履歴を表示する。	N/A	A/S	－	
LOGOUT	A/O/U	CLI を終了する。	N/A	A/S	－	
QUIT	A/O/U	CLI を終了する。	N/A	A/S	－	
ラック管理コマンド						
SET RACK NAME	A/O	EMカードが搭載されるラックの名称を設定する。32文字以内。	" "（未設定）	A	○	

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SHOW RACK NAME	A/O/U	設定したラックの名称を表示する。	N/A	A/S	―	
SET RACK UID	A/O	ラックユニークIDを設定する。16文字以内。	" "（未設定）	A	○	未設定の場合、自動的にブレード収納ユニットシリアル番号になる。
SHOW RACK UID	A/O/U	設定したラックユニークIDを表示する。	N/A	A/S	―	
SHOW TOPOLOGY	A/O/U	同一ラック内で複数のブレード収納ユニットが搭載されている場合、ブレード収納ユニットの接続状況を表示する。	N/A	A	―	
ENABLE TOPOLOGY	A/O	ブレード収納ユニット間接続の設定を有効にする。	Disable	A	○	*3
DISABLE TOPOLOGY	A/O	ブレード収納ユニット間接続の設定を無効にする	Disable	A	○	*3
ユーザ管理コマンド						
ADD USER	A	ユーザを追加する。登録可能な最大ユーザ数は30人とする。 システムで既定されたユーザ(Administrator)は、重複して登録することはできない。	Administrator	A	○	*3 "Administrator"を含めて30ユーザまで登録が可能
ASSIGN [SERVER ¦ SWITCH]	A	指定したユーザに対して、CPUブレードまたはスイッチモジュールへのアクセス権を設定する。	N/A	A	○	*3
ASSIGN EM	A	指定したユーザに対して、EMカードへのアクセス権を設定する。	N/A	A	○	*3
DISABLE USER	A	指定したユーザアカウントを使用不可能に設定する。	初期登録ユーザについては、すべてEnable設定	A	○	*3
ENABLE USER	A	指定したユーザアカウントを使用可能に設定する。	初期登録ユーザについては、すべてEnable設定	A	○	*3
REMOVE USER	A	指定したユーザアカウントを削除する。	N/A	A	―	*3
SET PASSWORD	A/O/U	自分自身のパスワードを設定する。パスワードは3～8文字の範囲で設定可能とする。	N/A	A	―	

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SET USER CONTACT	A	指定したユーザにおいて、コンタクト先を登録する。コンタクト先の文字数は32文字までとする。	" "（未設定）	A	○	
SET USER FULLNAME	A/O	指定したユーザにおいて、フルネームを登録する。フルネームの文字数は32文字までとする。	"Administrator": Full name: System Administrator	A	○	
SET USER PASSWORD	A	指定したユーザにおいて、パスワードを設定する。パスワードは3～8文字の範囲で設定可能とする。本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。	N/A	A	―	
SET USER ACCESS	A	指定したユーザにおいて、アクセス権を設定する。アクセス権："ADMINISTRATOR"、"OPERATOR"、"USER"本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。	Administrator: "Admin"	A	○	*3
SHOW USER	A/O/U	EMファームウェアに登録されているユーザ一覧を表示する。	N/A	A/S	―	
UNASSIGN [SERVER ¦ SWITCH]	A	指定したユーザに対して、CPUブレードまたはスイッチモジュールへのアクセス権を解除する。	N/A	A	―	*1 ¦ *2
UNASSIGN EM	A	指定したユーザに対して、EMカードへのアクセス権を解除する。	N/A	A	―	*3
システム管理コマンド						
CLEAR SWITCH SESSION	A/O	スイッチモジュールにEMカード経由でシリアル接続しているユーザのセッションを強制的に中断する。	N/A	A	―	*2
PING	A/O/U	指定したIPアドレス orサーバ名に対してPING（ICMP Echoコマンド）を発行する。	N/A	A/S	―	
SET FACTORY	A	EMファームウェアが保持する各種設定を初期状態へ復旧する。本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。	N/A	A	―	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
筐体ネットワーク管理コマンド						
ADD NETWORK DNS	A/O	DNSサーバを設定する。2つまで登録可能とする。	N/A	A	○	*3
ADD TRUSTED HOST	A/O	EMファームウェアへのアクセスを許可するIPアドレスを指定する。最大5つまで登録可能とする。	N/A	A	○	*3
ADD SNMP TRAPRECEIVER	A/O	SNMPトラップの通知先を指定する。最大3つまで登録可能とする。	N/A	A	○	*3
DISABLE HTTPS	A/O	EMファームウェアのWebコンソール機能をDisableに設定する。	Enable	A	○	*3
DISABLE TRUSTED HOST	A/O	EMファームウェアへのネットワークアクセス制限機能をDisableに設定する。	Disable	A	○	*3
DISABLE NTP	A/O	EMファームウェアのNTP機能をDisableに設定する。	Disable	A	○	*3
DISABLE SECURESH	A/O	EMファームウェアへのSSH接続をDisableに設定する。	Enable	A	○	*3
DISABLE SNMP	A/O	EMファームウェアのSNMP機能をDisableに設定する。	Enable	A	○	*3
DISABLE SNMP TRAPACK	A/O	EMファームウェアのSNMP TrapAck機能をDisableに設定する。	Disable	A	○	*3
DISABLE TELNET	A/O	EMファームウェアへのTelnet接続機能をDisableに設定する。	Enable	A	○	*3
ENABLE HTTPS	A/O	EMファームウェアのWebコンソール機能をEnableに設定する。	Enable	A	○	*3
ENABLE TRUSTED HOST	A/O	EMファームウェアへのネットワークアクセス制限機能をEnableに設定する。	Disable	A	○	*3
ENABLE NTP	A/O	EMファームウェアのNTP機能をEnableに設定する。	Disable	A	○	*3
ENABLE SECURESH	A/O	EMファームウェアへのSSH接続をEnableに設定する。	Enable	A	○	*3
ENABLE SNMP	A/O	EMファームウェアのSNMP機能をEnableに設定する。	Enable	A	○	*3
ENABLE SNMP TRAPACK	A/O	EMファームウェアのSNMP TrapAck機能をEnableに設定する。	Disable	A	○	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
ENABLE TELNET	A/O	EMファームウェアへのTelnet接続機能をEnableに設定する。	Enable	A	○	*3
REMOVE NETWORK DNS	A/O	登録済のDNSサーバを削除する。	N/A	A	―	*3
REMOVE TRUSTED HOST	A/O	コマンド"ADD TRUSTED HOST"で設定したIPアドレスを削除する。	N/A	A	―	*3
REMOVE SNMP TRAPRECEIVER	A/O	登録済のSNMPトラップ通知先を削除する。	N/A	A	―	*3
SET NETWORK ADDRESSRANGE	A/O	EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールのIPアドレスを設定する。	「コマンド仕様」参照	A	○	*3
SET NETWORK DOMAIN	A/O	ドメイン名を設定する。ドメイン名は、最大64字までの文字列で指定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET NETWORK GATEWAY	A/O	EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールのGatewayアドレスを設定する。	"0.0.0.0"	A	○	*3
SET NETWORK NTP POLL	A/O	NTPの更新間隔を指定する。 単位：秒。設定値の範囲：60～9999	"720"	A	○	*3
SET NETWORK NTP PRIMARY	A/O	Primary NTPサーバのIPアドレスを設定する。	"0.0.0.0"	A	○	*3
SET NETWORK NTP SECONDARY	A/O	Secondary NTPサーバのIPアドレスを設定する。	"0.0.0.0"	A	○	*3
SET SNMP COMMUNITY READ	A/O	Read動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。 コミュニティ名は、最大31字までの文字列で指定する。	"public"	A	○	*3
SET SNMP COMMUNITY WRITE	A/O	Read/Write動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。 コミュニティ名は、最大31字までの文字列で指定する。	"public"	A	○	*3
SET SNMP COMMUNITY TRAP	A/O	Trap動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。 コミュニティ名は、最大31字までの文字列で指定する。	"public"	A	○	*3
SET SNMP CONTACT	A/O	SNMPで返却する、コンタクト名称を設定する。 コンタクト名は、最大64字までの文字列で指定する。	"unknown"	A	○	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SET SNMP LOCATION	A/O	SNMPで返却する、ロケーション情報を設定する。 ロケーション情報は、最大64字までの文字列で指定する。	"unknown"	A	○	*3
SET SNMP LOCATION ENCLOSURE	A/O	SNMPで返却する、ラック内のブレード収納ユニット搭載位置情報を設定する。 位置情報は、単位Unit(10進数字)で指定する。	"0"	A	○	*3
SET SNMP RACKHEIGHT	A/O	SNMPで返却する、ラックの高さ情報を設定する。 高さ情報は、単位Unit(10進数字)で指定する。	"0"	A	○	*3
SET SNMP TRAPACKPORT	A/O	SNMP Tarp Ackで受信するポート番号を指定する。 ポート番号は、10進数字で指定する。	"5002"	A	○	*3 初期値のままでESMPRO/ServerManager利用可能
SHOW NETWORK	A/O/U	ネットワークの設定状態を表示する。 表示項目： IPアドレス、 サブネットマスク、 Gateway DNSサーバアドレス（Primary、Secondary） EMカードのMACアドレス, Webサーバ設定値（Enable/Disable） SNMP設定値 （Enable/Disable） SSH設定値 （Enable/Disable） Telnet設定値 （Enable/Disable） NTP設定値 （Enable/Disable） TRUSTED HOST設定値（Enable/Disable） NTPサーバアドレス NTPサーバ更新間隔	N/A	A/S	―	*3
SHOW SNMP	A/O/U	SNMPの設定状態を表示する。 表示項目： システム名 ロケーション情報 コンタクト先名称 コミュニティ名（Read/Write/Trap） トラップ通知先 TrapACK設定値（Enable/Disable）	N/A	A/S	―	*3
TRAPTEST	A/O	テスト用のSNMPトラップを発行する。	N/A	A	―	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
筐体管理コマンド						
DOWNLOAD CONFIG	A	引数で指定したURLからEMファームウェアのConfig情報をダウンロードし、設定を反映する。更新後、更新した設定を適用するためにEMファームウェアは自動リブートする。	N/A	A	―	*3
FORCE TAKEOVER	A	EMカードを2台搭載している場合、アクティブEMとスタンバイEMを強制的に切り替える	N/A	A/S	―	*3
RESTART EM	A	EMファームウェアを再起動する。	N/A	A/S	―	*3
SET AUTOLOGOUT	A/O/U	CLIを操作しない状態で放置した場合に、自動的にCLIを終了する時間を指定する。	60分	A/S	―	当該CLIセッション内でのみ有効。
SET DATE	A/O	EMファームウェアに対して日時情報を設定する。設定フォーマット：MMDDhhmm{{CC}YY}{TZ}	N/A	A	―	*3 時刻は手動で再設定すること。*
SET DISPLAY EVENT	A/O/U	特定のイベントが発生したことをCLIコンソール上に表示する、イベント表示機能の有効/無効を設定する。	"OFF"（無効）	A/S	―	当該CLIセッション内でのみ有効。
SET ENCLOSURE ASSET TAG	A/O	ブレード収納ユニットの資産番号を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET ENCLOSURE NAME	A/O	ブレード収納ユニット名を設定する。	ブレード収納ユニットシリアル番号	A	○	*3
SET ENCLOSURE UID	A/O	ブレード収納ユニットのIDランプを点灯・消灯する。	N/A	A	―	*4
SET POWER POLICY	A/O	電源制御のポリシーを設定する。	PERFORMANCE(CPU性能モード)	A	○	*3
SET POWER REDUNDANCY	A/O	電源の冗長モードを設定する。	POWERSUPPLY(個別電源冗長モード(N+1冗長))	A	○	*3
SET TIMEZONE	A/O	EMファームウェアに対してタイムゾーンを指定する。	"JST"	A	―	*3 タイムゾーンは手動で再設定すること。*

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SHOW ALL	A/O/U	筐体内の全構成情報を表示する。	N/A	A/S	–	
SHOW AUTOLOGOUT	A/O/U	CLIを操作しない状態で放置した場合に、自動的にCLIが終了する時間を表示する。	N/A	A/S	–	
SHOW CONFIG	A	EMファームウェアに設定されているConfig設定情報を、CLIコマンド形式で表示する。	N/A	A	–	*3
SHOW DATE	A/O/U	EMファームウェアの日時情報・タイムゾーン設定を表示する。	N/A（タイムゾーン: "JST"）	A/S	–	
SHOW DISPLAY EVENT	A/O/U	"SET DISPLAY EVENT" コマンドの設定状況を表示する。	N/A	A/S	–	
SHOW ENCLOSURE FAN	A/O/U	ブレード収納ユニットに搭載されるFANユニットの情報を表示する。 表示項目： ステータス 冗長状態 回転数 パーツ番号	N/A	A	–	*3
SHOW ENCLOSURE INFO	A/O/U	ブレード収納ユニットの情報を表示する。 表示項目： ブレード収納ユニット名 ブレード収納ユニット形式 EMファームウェアのバージョン EMカードのバージョン ブレード収納ユニットのパーツ番号 シリアル番号 資産番号 EMカードのMACアドレス	N/A	A/S	–	
SHOW ENCLOSURE POWERSUPPLY	A/O/U	ブレード収納ユニットに搭載される電源ユニットの情報を表示する。 表示項目： 電源ユニットのステータス AC入力状態 供給容量 入力電圧レンジ 入力周波数レンジ パーツ番号 シリアル番号 リビジョン 省電力状態	N/A	A	–	*3
SHOW ENCLOSURE STATUS	A/O/U	ブレード収納ユニットのステータスを表示する。 表示項目： 稼動状態 IDランプ状態 電源ステータス・容量	N/A	A	–	

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SHOW ENCLOSURE TEMP	A/O/U	ブレード収納ユニットの温度を表示する。 表示項目： ステータス(OK, warm, degraded, or failed) 温度（摂氏、華氏）	N/A	A	−	
SHOW POWER	A/O/U	電源関連の設定情報を表示する。 表示項目： 電源冗長モード 供給可能電力量 割り当て電力量 省電力状態 電力制御状態	N/A	A	−	
SHOW VERSION	A/O/U	EMカード/EMファームウェア のバージョンを表示する。	N/A	A/S	−	
UPDATE IMAGE	A	EMファームウェアをアップデートする。 指定したURL（http、ftp、tftp）からEMファームウェアイメージをダウンロードし、自動的に更新する。 更新後、更新したイメージを適用するためにEMファームウェアは自動リブートする。	N/A	A	−	*3
UPLOAD CONFIG	A	引数で指定したURLへEMファームウェアのConfig情報をアップロードする。	N/A	A	−	*3
SET POWER SAVINGS	A/O	余剰電源が存在するときに 電源ユニットの電源をOFFする。電力が不足する場合はOFF状態の電源ユニットをONする。	"ON"（常に有効）	A	○	*3
SET POWER LIMIT	A/O	ブレード収納ユニット内で利用できる電力の上限を設定する。	"OFF"（無効）	A	○	*3
SHOW ENCLOSURE FANSPEED	A/O/U	FANユニットのステータス(回転速度)を表示する。	N/A	A	−	*3
SHOW ENCLOSURE FANSENSOR	A/O/U	FANユニットのステータス(電圧、電流)を表示する。	N/A	A	−	*3
CPUブレード管理コマンド						
POWEROFF SERVER	A/O	指定したCPUブレードのDC電源を切断（OFF）する。	N/A	A	−	*1、*5
POWERON SERVER	A/O	指定したCPUブレードのDC電源を投入（ON）する。	N/A	A	−	*1、*5
REBOOT SERVER	A/O	指定したCPUブレードを再起動(RESET)する。	N/A	A	−	*1

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SET SERVER UID	A/O/U	指定したCPUブレードのIDランプボタンを点灯・消灯する。	N/A	A	−	*1
SHOW SERVER INFO	A/O/U	指定したCPUブレードの情報を表示する。 表示項目： ブレードタイプ ブレード名称 パーツ番号 シリアル番号 LANのMACアドレス CPUブレード BMCのIPアドレス	N/A	A	−	*1
SHOW SERVER LIST	A/O/U	指定されたCPUブレードの情報を表示する。 表示項目: CPUブレード名称 CPUブレード BMCのIPアドレス Health状態 電源状態(ON/OFF/Degrade) IDランプ状態(ON/OFF)	N/A	A	−	*1
SHOW SERVER PORT MAP	A/O/U	指定されたCPUブレードのポートマッピング情報を表示する。	N/A	A	−	*1
SHOW SERVER STATUS	A/O/U	CPUブレードの稼動ステータスを表示する。 表示項目: 電源状態(OK or OFF) 使用電力量 稼動ステータス（OK, CPU failure, or power module failure） IDランプ状態	N/A	A	−	*1
SET SERVER POWERONDELAY	A	ブレードの電源投入遅延時間を設定する。	"0"（遅延機能の無効を意味する）	A	○	*1 CPUブレードの場合のみ、設定値が有効となる。
SHOW SERVER POWERONDELAY	A/O/U	ブレードの電源投入遅延時間の設定値を表示する。	N/A	A	−	*1
SHOW SERVER LCD	A/O/U	CPUブレードの一般情報(仮想LCD)を表示する。	N/A	A	−	*1 仮想LCDとは、CPUブレードの状態を表す仮想のLCDを指します。
UPLOAD SERVER SEL	A	CPUブレードのSEL情報を採取する。	N/A	A	−	*1
SET SERVER POWERCONTROLMODE	A	CPUブレードの電力制御モードを設定する	"Dynamic"（Dynamicモード）	A	○	*1

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SHOW SERVER POWERCONTROLMODE	A	現在のCPUブレードの電力制御モードを表示する	N/A	A	−	*1
スイッチモジュール管理コマンド						
CONNECT SWITCH	A/O/U	指定したスイッチモジュールのシリアルコンソールへ接続する。	N/A	A	−	*2
POWEROFF SWITCH	A/O	指定したスイッチモジュールのDC電源を切断（OFF）する。	N/A	A	−	*2
POWERON SWITCH	A/O	指定したスイッチモジュールのDC電源を投入（ON）する。	N/A	A	−	*2
SET SWITCH NAME	A/O	指定したスイッチモジュールスロットに名称をつける。	" "（未設定）	A	−	*2
SET SWITCH UID	A/O/U	指定したスイッチモジュールのIDランプを点灯・消灯する。	N/A	A	−	*2
SHOW SWITCH INFO	A/O/U	指定したスイッチモジュールの情報を表示する。 表示項目： スイッチモジュールタイプ 製造者名 製品名 製品パーツ番号 製品バージョン 製品シリアル番号	N/A	A	−	*2
SHOW SWITCH LIST	A/O/U	搭載されているスイッチモジュールの一覧を表示する。	N/A	A	−	*2
SHOW SWITCH PORT MAP	A/O/U	指定されたスイッチモジュールのポートマッピング情報（E-Keying情報）を表示する。	N/A	A	−	*2
SHOW SWITCH STATUS	A/O/U	スイッチモジュールの稼動ステータスを表示する。 表示項目： IDランプ状態 稼動ステータス	N/A	A	−	*2
EM管理コマンド						
SET EM NAME	A/O	EMカードに固有名称を設定する。	EM-(EMカードのMACアドレス)	A/S	○	*3
SET EM UID	A/O/U	EMカードのIDランプを点灯・消灯する。	N/A	A/S	−	*3
SHOW EM INFO	A/O/U	EMカード自身の情報を表示する。	N/A	A/S	−	
SHOW EM STATUS	A/O/U	EMカード自身の状態情報を表示する。	N/A	A/S	−	

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SET EM LANGUAGE	A/O	EMカードの言語タイプを設定する。	"JAPANESE"	A	○	*3 SNMP Trapのメッセージ切り替え等で参照する。(E-Mail通報にも使用されます)
ENABLE EMLANLINKDOWN TAKEOVER	A	EMマネジメントLANポートにおいて、リンクダウンを検出したときにEMを自動的にスイッチオーバーする機能を有効にする。	Disable	A	○	*3
DISABLE EMLANLINKDOWN TAKEOVER	A	EMマネジメントLANポートにおいて、リンクダウンを検出したときにEMを自動的にスイッチオーバーする機能を無効にする。	Disable	A	○	*3
SET EMLANLINKDOWN WAIT	A	EMマネジメントLANポートのリンクダウン検出において、リンクダウン発生を検出してからダウンを確定するまでの待ち時間を設定する。「単位: 秒」	"5"	A	○	*3
SHOW EM NETWORK	A/O/U	EMカードのネットワーク設定や状態を表示する。	N/A	A/S	−	*3
DianaScope Gateway制御コマンド						
SET DSGPASSWORD	A/O	DianaScope Gatewayのパスワードを設定する。	"guest"	A	○	*3 DianaScope Manager およびESMPRO/SM（Ver.5以降）で認証キーに使用する。
SHOW DSGPASSWORD	A/O	DianaScope Gatewayのパスワードを表示する。	N/A	A/S	−	
SET DSGSTATE	A/O	DianaScope Gatewayのステータス（Enable/Disable）を設定する。	"1"（Enable）	A	○	*3
SHOW DSGSTATE	A/O	DianaScope Gatewayのステータス（Enable/Disable）を表示する。	N/A	A/S	−	
SIGMABLADEモニター制御コマンド						
CLEAR SIGMABLADEMONITOR OSD	A	SIGMABLADEモニターの設定を初期化する。	N/A	A	−	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
DISABLE SIGMABLADEMONITOR PASSWORD	A	SIGMABLADEモニターのパスワードを無効にする。	Enable	A	○	*3
ENABLE SIGMABLADEMONITOR PASSWORD	A	SIGMABLADEモニターのパスワードを有効にする。	Enable	A	○	*3
RESTART SIGMABLADEMONITOR	A	SIGMABLADEモニターのリセットを行う。	N/A	A	—	*3
SET SIGMABLADEMONITOR BACKLIGHT	A/O	SIGMABLADEモニターのバックライトオフまでの時間を設定。	1分	A	○	*3
SET SIGMABLADEMONITOR PASSWORD	A	SIGMABLADEモニターのパスワード設定を行う。	0000	A	—	*3
SHOW SIGMABLADEMONITOR LCD	A/O/U	SIGMABLADEモニターのLCDの表示内容を表示する。	N/A	A	—	
SHOW SIGMABLADEMONITOR BACKLIGHT	A/O/U	SIGMABLADEモニターのバックライトオフまでの時間を表示する。	1分	A	—	
SHOW SIGMABLADEMONITOR PASSWORDSTATE	A/O/U	SIGMABLADEモニターのパスワード設定(有効/無効)を表示する。	N/A	A	—	
SHOW SIGMABLADEMONITOR VERSION	A/O/U	SIGMABLADEモニターのファームウェアリビジョンを表示する。	N/A	A	—	
UPDATE SIGMABLADEMONITOR IMAGE	A	SIGMABLADEモニターのファームウェアをアップデートする。	N/A	A	—	
E-Mail通報コマンド						
DISABLE MAILALERT	A/O	E-Mail通報機能を無効にする。	Disable	A	○	*3
DISABLE MAILALERT SMTPAUTH	A/O	通報メールを送信する際のSMTP認証を無効にする。	Disable	A	○	*3
ENABLE MAILALERT	A/O	E-Mail通報機能を有効にする。	Disable	A	○	*3
ENABLE MAILALERT SMTPAUTH	A/O	通報メールを送信する際のSMTP認証を有効にする。	Disable	A	○	*3
SET MAILALERT ADDRESS1	A/O	通報メールの通報先メールアドレス(その1)を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT ADDRESS2	A/O	通報メールの通報先メールアドレス(その2)を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3

コマンド	アクセス権	説明	初期値	EMカードのアクティブ/スタンバイ	バックアップ対象	備考
SET MAILALERT ADDRESS3	A/O	通報メールの通報先メールアドレス(その3)を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT FROMADDR	A/O	通報メールの送信元メールアドレス(From)を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT LEVEL	A/O	E-Mailで通報するイベントレベルを設定する。	Warning	A	○	*3
SET MAILALERT REPLYTO	A/O	通報メールに対する返信先メールアドレス(Reply-To)を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT SMTPAUTH PASSWORD	A/O	SMTP認証のパスワードを設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT SMTPAUTH USER	A/O	SMTP認証のユーザ名を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SET MAILALERT SMTPPORT	A/O	通報メールを送信するためのSMTPのポート番号を設定する。	"25"	A	○	*3
SET MAILALERT SMTPSERVER	A/O	通報メールを送信するためのSMTPサーバのIPアドレスを設定する。	"0.0.0.0"	A	○	*3
SET MAILALERT SUBJECT	A/O	通報メールの件名(Subject)に記載内容を設定する。	" "（未設定）	A	○	*3
SHOW MAILALERT	A/O/U	E-Mail通報に関する各種設定値を表示する。	N/A	A/S	−	*3
TEST MAILALERT	A/O	テスト通報を行う。	N/A	A	−	*3
ログ採取コマンド						
LOGCOLLECT	A	EMカードが保持する各種ステータス情報、ログ情報を採取する。	N/A	A/S		

*「表示項目」は表示される主要な項目を記載したものです。

*1： ブレードアクセス権が必要
*2： スイッチモジュールアクセス権が必要
*3： EMカードアクセス権が必要
*4： IDランプの点灯･消灯にはEMカードアクセス権が必要(ADMINISTRATOR/OPERATOR)
IDランプの点灯・消灯は不可（USER）
*5： CPUブレードや筐体の状態によっては、指示成功時もON/OFF状態とならない場合があります。

コマンド仕様

名　称

概　要

コマンドの概要を記載します。
※ 「表示項目」は表示される主要な項目を記載したものです。

コマンド名

CLIコマンドプロンプトで指定するコマンドを記載します。

第一引数

コマンドに与える引数を指定します。
規定値を記載する場合は、当該文字列･数値を "（ダブルクォーテーション）でくくっています。
可変値を記載する場合は、当該文字列・数値を "<"、">" でくくっています。

第二引数..第ｎ引数

複数の引数をとる場合、引数の数だけ記載します。

実行例

実行例を記載します。

初期値

設定・変更するコマンドについては、設定値の初期値（デフォルト値）を記載します。

補　足

操作上、特に注意すべき点があれば記載します。

一般コマンド

CLI画面クリア

概要
CLI画面をクリアする。
画面をクリアした後に、CLIプロンプトを表示する。

コマンド名
CLEAR SCREEN

引数
なし

実行例

初期値

補足

CLI終了

概要
CLIを終了する。
シリアルポート経由の接続でログインした場合は、ログインセッションを終了してログインプロンプトに戻る。
Telnet/SSH 経由でログインした場合は、CLIを終了した後に当該ログインセッションを切断する。

コマンド名
EXIT ／ LOGOUT ／QUIT
何れかのコマンドを指定することでCLIを終了する。

引数
なし

実行例

初期値

補足

ヘルプメッセージ表示

概要
CLIコマンドのヘルプメッセージを表示する

コマンド名
HELP

引数
<HELPで表示させたい個別のコマンド名>
個々のコマンドの仕様により、引数としてサブコマンドを指定することを可能とする。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> help

ADD ASSIGN CLEAR CONNECT DISABLE DOWNLOAD ENABLE EXIT FORCE HELP
HISTORY LOGOUT
PING POWEROFF POWERON QUIT REBOOT REMOVE RESTART SET SHOW SLEEP
TRAPTEST
UNASSIGN UPDATE UPLOAD

1Z34AB7890(Administrator)> help help

HELP {<command>}: Show Help messages for <command> or list the top level
commands if no arguments are provided. Arguments listed in square brackets [ ]
and separated by the pipe symbol | are mutually exclusive choices. Arguments
listed in braces {} are optional arguments and can be omitted. Fields listed in
angle brackets <> should be replaced with the value indicated.

1Z34AB7890(Administrator)> help show

SHOW [ ALL | AUTOLOGOUT | CONFIG | DATE | DISPLAY EVENT(S) | ENCLOSURE |
SWITCH
| NETWORK | EM | POWER | RACK NAME | SERVER | SNMP | TOPOLOGY | USER |
VERSION | SIGMABLADEMONITOR ]

1Z34AB7890(Administrator)> help show server

SHOW SERVER [ INFO | LIST | STATUS | PORT MAP | POWERONDELAY | LCD ]

1Z34AB7890(Administrator)> help show server info

SHOW SERVER INFO [ ALL | <slot number> {[ , | - ] <slot number>}]: Displays a
brief description of Blade in the specified blade or range of blades.

1Z34AB7890(Administrator)>
```

HELPコマンド実行例

初期値

補足

コマンド入力履歴の表示

概要
CLI画面で入力したコマンドの履歴を表示する。

コマンド名
HISTORY

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> history
   1  poweroff
   2  poweron
   3  show
   4  reboot
   5  set server
   6  set server uid
   7  show server info
   8  show server info all
   9  conenct
  10  connect
  11  help
  12  history

1Z34AB7890(Administrator)>
```

HISTORYコマンド実行例

初期値

補足

ラック管理コマンド

ラック名の設定

概要
EMカードが搭載されるラックの名称を設定する。

コマンド名
SET RACK NAME

引数
＜ラック名＞
32文字以内の半角英数字と一部記号で指定する。ただし、先頭文字は半角英字で指定する。
＜ラック名＞として‘" ’(ダブルクォーテーション)でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のラック名情報がクリアされる。
例：‘SET RACK NAME ""’

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set rack name Prototype

Changed Rack name to "Prototype".
```

ラック名設定コマンド実行例

初期値
"" （未設定）

補足
"SET"、"RACK"、"NAME" の間は、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。
以降のコマンドについても同様に、複数の文字列から成立されるコマンドについては、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。

ラック名の表示

概要
設定したラックの名称を表示する。

コマンド名
SHOW RACK NAME

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show rack name

Rack Name: Prototype
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ラック名表示コマンド実行例

初期値

補足
"SHOW"、"RACK"、"NAME" の間は、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。

ラックユニークIDの設定

概要
EMカードが搭載されるラックを一意に識別するためのユニークIDを設定する。

コマンド名
SET RACK UID

引数
<ラックユニークID>
16文字以内の半角英数字と一部記号で指定する。ただし、先頭文字は半角英字で指定する。
<ラックユニークID>として‘""’(ダブルクォーテーション)でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のラックユニークID情報がクリアされる。
例：‘SET RACK UID ""’

実行例

初期値
"" （未設定）

補足
初期値からの設定変更不要（未設定の場合、自動的にブレード収納ユニットシリアル番号になります。）
"SET"、"RACK"、"UID" の間は、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。
以降のコマンドについても同様に、複数の文字列から成立されるコマンドについては、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。

ラックユニークIDの表示

概要
設定したラックユニークIDを表示する。

コマンド名
SHOW RACK UID

引数
なし

実行例

初期値

補足
"SHOW"、"RACK"、"UID" の間は、一文字以上の空白（ブランク）を挿入する。

同一ラック内のブレード収納ユニットの接続状態の表示

概要
同一ラック内で複数のブレード収納ユニットが搭載されている場合、ブレード収納ユニットの接続状況を表示する。

コマンド名
SHOW TOPOLOGY

引数
なし

実行例

初期値

補足

ブレード収納ユニット間接続の設定を有効

概要
ブレード収納ユニット間接続の設定を有効にする。

コマンド名
ENABLE TOPOLOGY

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

ブレード収納ユニット間接続の設定を無効

概要
ブレード収納ユニット間接続の設定を無効にする。

コマンド名
DISABLE TOPOLOGY

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

ユーザ管理コマンド

ユーザの追加

概要
本システムを操作・管理するユーザを追加する。
登録可能な最大ユーザ数は30ユーザとする。

コマンド名
ADD USER

第一引数
＜ユーザ名＞
ユーザ名を 13 文字以内で指定する。

＜ユーザ名＞として使用可能な文字列は、半角英数字と一部記号（a-zA-Z、0-9、’-’（ダッシュ）、’_’（アンダースコア））とする。
＜ユーザ名＞の長さは、1文字以上、13文字以内とする。

第二引数
＜パスワード＞（省略可能）
パスワードを 3−8文字 の英数字で指定する。
パスワードを省略した場合、パスワードの入力を促すメッセージを表示して、パスワード入力待ちとなる。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> add user test

New Password: ****
Confirm     : ****
User "test" created.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザ追加コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
“外部認証の使用”が“使用する”の場合、EMカードからはパスワードの変更ができないため、ユーザの追加はできません。ユーザの追加は“外部認証の使用”が“使用しない”の状態で行ってください。

ユーザのアサイン(CPUブレード/スイッチモジュール用)

概要
指定したユーザに対して、CPUブレード、スイッチモジュールに対するアクセス権限を設定する。

コマンド名
ASSIGN

第一引数
"SERVER" ¦ "SWITCH"

第二引数
<スロット番号> ¦ <スロット番号> - <スロット番号> ¦ <スロット番号> , <スロット番号> ¦ "ALL"

<スロット番号>と<スロット番号>を’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)で連結する場合、’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

スロット番号：

CPUブレードの場合は、CPUブレード番号を意味する。
同様に、スイッチモジュールの場合はモジュール番号を指定する。

第三引数
<登録済のユーザ名>

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> assign server 1 test

test has been granted access to the valid requested bay(s)
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザアサインコマンド(CPUブレード/スイッチモジュール用)実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
アクセス権限についての詳細は「コマンド一覧」（56ページ）の備考欄を参照してください。

ユーザのアサイン(EMカード用)

概要
指定したユーザに対してEMカードへのアクセス権限を設定する。

コマンド名
ASSIGN

第一引数
"EM"

第二引数
＜登録済のユーザ名＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> assign em test

test has been granted access to the valid requested EM.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザアサインコマンド(EMカード用)実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
アクセス権限についての詳細は「コマンド一覧」（56ページ）の備考欄を参照してください。

登録ユーザの無効化

概要
指定したユーザアカウントを使用不可能に設定する。

コマンド名
DISABLE USER

引数
＜登録済のユーザ名＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> disable user test

User "test" has been disabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザ無効化コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

無効ユーザの有効化

概要
指定したユーザアカウントを使用可能に設定する。

コマンド名
ENABLE USER

引数
＜登録済のユーザ名＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> enable user test

User "test" has been enabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザ有効化コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

ユーザの削除

概要
指定したユーザアカウントを削除する。

コマンド名
REMOVE USER

引数
＜登録済のユーザ名＞ ¦ "ALL"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> remove user test

User "test" removed.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザ削除コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

パスワードの設定

概要
CLIにログインしているユーザ自身のパスワードを設定する。

コマンド名
SET PASSWORD

引数
＜パスワード＞（省略可能）
パスワードを3～8文字の英数字で指定する。
パスワードを省略した場合、パスワードの入力を促すメッセージを表示して、パスワード入力待ちとなる。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set password abcd

Changed password for the "Administrator" user account.
1Z34AB7890(Administrator)> set password

New Password  : ********
Confirm       : ********
Changed password for the "Administrator" user account.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

パスワード設定コマンド実行例

初期値

補足

ユーザコンタクト先の登録

概要
指定したユーザにおいて、コンタクト先を登録する。

コマンド名
SET USER CONTACT

第一引数
＜ユーザ名＞（省略可能）
ユーザ名を省略した場合は、CLIにログインしているユーザ自身が対象となる。

第二引数
＜コンタクト先情報＞
コンタクト先の文字数は32文字までとする。

＜コンタクト先情報＞として’"’（ダブルクォーテーション)でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のコンタクト先情報がクリアされる。
例：’SET USER CONTACT """’

実行例

初期値
なし

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

ユーザ正式名の設定

概要
指定したユーザにおいて、フルネームを設定する。

コマンド名
SET USER FULLNAME

第一引数
＜ユーザ名＞（省略可能）
ユーザ名を省略した場合は、CLIにログインしているユーザ自身が対象となる。

第二引数
＜フルネーム＞
フルネームの文字数は32文字までとする。

＜フルネーム＞として’”’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のフルネームがクリアされる。
例：’SET USER FULLNAME ""’

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set user fullname sample SampleUser

Full name has been updated for the "sample" user account.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザ正式名設定コマンド実行例

初期値
なし

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORおよびOPERATORの権限をもつユーザのみである。

パスワードの設定

概要
引数で指定したユーザのパスワードを設定する。

コマンド名
SET USER PASSWORD

第一引数
＜ユーザ名＞(省略不可)

第二引数
＜パスワード＞（省略可能）
パスワードを 3～8文字 の英数字で指定する。
パスワードを省略した場合、パスワードの入力を促すメッセージを表示して、パスワード入力待ちとなる。

実行例

初期値
なし

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

アクセス権の設定

概要
引数で指定したユーザにおいて、アクセス権を設定する。

コマンド名
SET USER ACCESS

第一引数
＜ユーザ名＞(省略不可)

第二引数
＜アクセス権＞
"ADMINISTRATOR" or "OPERATOR" or "USER"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set user access sample OPERATOR

"sample" has been given operator level privileges.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ユーザアクセス権設定コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。

登録ユーザの表示

概要

登録済のユーザの一覧を表示する。

表示項目
ユーザの正式名称
ユーザのコンタクト先
ユーザの属性（アクセス権）

コマンド名

SHOW USER

引数

＜ユーザ名＞ or "LIST"（全ユーザ表示）

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show user list

                                          Privilege    Acct.
 User Name      Full Name                 Level        Status
 -------------  ------------------------- ----------  ---------
Administrator   System Administrator      Admin       Enabled
sample          SampleUser                User        Enabled


1Z34AB7890(Administrator)> show user sample

User "sample" Information:
        Full name: SampleUser
        Contact Info: TokyoJapan
        User Rights: User
        Account Status: Enabled
        Blade Slot Access List: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
        Switch Module Slot Access List: 1 2 3 4 5 6 7 8
        EM Access: Yes

1Z34AB7890(Administrator)>
```

登録ユーザ表示コマンド実行例

初期値

補足

ユーザのアサインの解除(CPUブレード/スイッチモジュール用)

概要
指定したユーザに対して、CPUブレード、スイッチモジュールに対するアクセス権限の設定を解除する。

コマンド名
UNASSIGN

第一引数
"SERVER" ¦ "SWITCH"

第二引数
<スロット番号> ¦ <スロット番号> - <スロット番号> ¦ <スロット番号> , <スロット番号> ¦ "ALL"

スロット番号：

CPUブレードの場合はCPUブレード番号を意味する。
スイッチモジュールの場合はモジュール番号を指定する。

第三引数
<登録済のユーザ名>

実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
アクセス権限についての詳細は「コマンド一覧」（56ページ）の備考欄を参照してください。

ユーザのアサインの解除(EMカード用)

概要
指定したユーザに対してEMカードへのアクセス権限の設定を解除する。

コマンド名
UNASSIGN

第一引数
"EM"

第二引数
＜登録済のユーザ名＞

実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
アクセス権限についての詳細は「コマンド一覧」（56ページ）の備考欄を参照してください。

システム管理コマンド

スイッチモジュールのシリアルポート経由の接続の強制切断

概要
スイッチモジュールにEMカード経由でシリアル接続しているユーザのセッションを強制的に中断する。

コマンド名
CLEAR SWITCH SESSION

引数
＜スイッチモジュール番号 ＞
1～8 の範囲

実行例

初期値

補足

PING

概要
指定したIPアドレス or サーバ名に対してPING（ICMP Echo コマンド）を発行する。

コマンド名
PING

第一引数
＜PING を発行する回数＞（省略可能）
省略時は、"4" が指定される。

第二引数
＜IPアドレス＞ or ＜サーバ名＞
"サーバ名" は、DNSを登録しているときに指定可能である。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> ping 192.168.1.68
PING 192.168.1.68 (192.168.1.68): 56 data bytes
64 bytes from 192.168.1.68: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.3 ms
64 bytes from 192.168.1.68: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.3 ms
64 bytes from 192.168.1.68: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.3 ms
64 bytes from 192.168.1.68: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.3 ms

--- 192.168.1.68 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.3/0.3/0.3 ms

1Z34AB7890(Administrator)>
```

PINGコマンド実行例

初期値

補足

Config情報の初期化(初期値へ戻す)

概要
EMファームウェアが保持する各種設定を初期状態へ復旧する。
※ EMカードを2枚搭載している場合は、2枚とも各種設定を初期状態へ復旧する。

コマンド名
SET FACTORY

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set factory

Entering anything other than 'YES' will result in the command not executing.

All existing settings will be lost when this operation is run
and the Enclosure Manager will restart.

Are you sure you want to restore factory defaults? yes

Attempting to restore factory defaults.  This operation may take some time.

Restoring factory default settings.
Enclosure Manager will now restart.
```

Config設定初期化コマンド実行例

初期値
初期値一覧(CLIで設定可能な項目のみ)を下表に示す。

Config情報の初期値一覧(CLIで設定可能な項目のみ)

項　目	初期値	補　足
ブレード収納ユニット名	ブレード収納ユニットのシリアル番号	本コマンドで初期化されない。
ラック名	" "	本コマンドで初期化されない。
EMカード名	EM-(EMカードのMACアドレス)	EMカード自身の名称
タイムゾーン	"JST"	
EM言語タイプ設定	"JAPANESE"	SNMP Trapメッセージの言語切り替えなどで参照する。
ネットワーク有効無効設定		
SSH	Enable	
Telnet	Enable	
SNMP	Enable	
NTP	Disable	

項　目	初期値	補　足
TRUSTED HOST	Disable	
Web	Enable	
EMカード IPアドレス	"192.168.1.8"	
CPUブレード IPアドレス	"192.168.1.12"	Slot#1から連続したアドレスが割り当てられる。
スイッチモジュール IPアドレス	"192.168.1.28"	
ネットマスク	"255.255.255.0"	
デフォルトゲートウェイ	"0.0.0.0"	
DNS1	"0.0.0.0"	
DNS2	"0.0.0.0"	
NTP1 (Primary)	"0.0.0.0"	
NTP2 (Secondary)	"0.0.0.0"	
NTPポーリング間隔（秒）	720	設定値の範囲： 0(無効)、60～9999
接続可能なIPアドレス（5件）	"0.0.0.0"	
初期登録ユーザ設定	"Administrator"	ユーザの各種設定を含む。
SNMP設定		
Get用コミュニティ名	"public"	
Get/Set用コミュニティ名	"public"	
Trap用コミュニティ名	"public"	
ロケーション	"unknown"	
コンタクト先	"unknown"	
トラップ通報先	" "	未設定 （トラップ通知先固有のコミュニティ名も未設定）
TrapAck設定	Disable	
TrapAckポート番号	"5002"	
DianaScope Gateway設定		
DSGパスワード	"guest"	
DSGステータス	"1"	1:Enable
CPUブレード設定		
CPUブレード遅延時間（スロット個別設定）	"0"	遅延機能の無効を意味する
電力制御モード	Dynamicモード	
スイッチモジュール設定		
スイッチモジュール名	" "	

項　目	初期値	補　足
筐体管理コマンド		
電源制御ポリシー	CPU性能モード	
電源冗長モード	個別電源冗長モード(N+1冗長)	
入力電源の上限値	OFF(無効)	
ブレード収納ユニット間接続の設定	Disable	
SIGMABLADEモニター制御コマンド		
SIGMABLADEモニターのパスワード有効／無効設定	Enable	
SIGMABLADEモニターのバックライトオフまでの時間設定	1分	
E-Mail通報		
E-Mail通報機能	Disable	
通報するイベントレベル	Warning	
通知先メールアドレス(その1)	" "	
通知先メールアドレス(その2)	" "	
通知先メールアドレス(その3)	" "	
送信元アドレス(From:)	" "	
返信先アドレス(Reply-To:)	" "	
件名(Subject:)	" "	
SMTP サーバのIP アドレス	"0.0.0.0"	
SMTP のポート番号	"25"	
SMTP 認証機能	Disable	
SMTP 認証のユーザ名	" "	
SMTP 認証のパスワード	" "	パスワードは、暗号化して記録されます。

補足

本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。

適用時にEMファームウェアをリブートする。EMカードを2枚搭載している場合には、双方のEMファームウェアが同時にリブートする。リブート中は、ブリッジ機能やSNMP機能も停止し、CPUブレードやスイッチモジュールのマネジメントLANを介した接続が一時的に切断される。また、ESMPRO/ServerManagerなどによるシステム監視も一時的に不可となる。
タイムアウトなどになった場合は、アクティブEMのリブートが完了した後に再接続すること。EMカードを2枚搭載している場合は、スタンバイEMも正常に動作している必要がある。スタンバイEMが起動中や異常な場合、コマンドを実行することはできない。スタンバイEMの準備ができるまでしばらく待ってから実行すること。スタンバイEMが異常な場合は、取り外してから実行すること。

本コマンドでは、Webコンソールで設定行う項目(以下に一例)も含めて全ての設定が初期化されます。そのような項目の初期値については「Webコンソール機能の使い方」を参照してください。

- DHCP用NTPサーバー IPアドレス
- DHCPでのIP割り振り機能
- 起動時の電源ユニット待ち合わせ時間
- ラック全体の入力電力の上限値
- 連携ブレード収納ユニット応答待ち時間
- ブレード優先度
- ブート制御の設定
- FANユニットの定期診断の設定
- iStorageの設定
- 外部認証の設定
- NASブレード電源連動設定

筐体ネットワークコマンド

DNSサーバの登録

概要
DNSを設定する。
2つまで登録可能とする。

コマンド名
ADD NETWORK DNS

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値

補足
DNSの設定変更は、EMカードの再起動後に反映されます。
ただし、CPUブレードおよびスイッチモジュールには、反映されません。

IPアクセスを許可するアドレスの登録

概要
EMファームウェアへのアクセスを許可するIPアドレスを指定する。
最大5つまで登録可能とする。

コマンド名
ADD TRUSTED HOST

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値

補足

SNMPトラップ通知先の登録

概要
SNMPトラップの通知先を指定する。
最大3つまで登録可能とする。

コマンド名
ADD SNMP TRAPRECEIVER

第一引数
＜IPアドレス＞

第二引数
＜コミュニティ名＞（省略可能）
最大32文字までの文字列で指定する。
省略した場合、デフォルトのコミュニティ名が設定される。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> add snmp trapreceiver 192.168.1.2

192.168.1.2 was added as a Trap Receiver.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SNMPトラップ通知先の登録コマンド実行例

初期値
なし（未登録）

補足

ネットワークアクセス許可の無効化

概要
EMファームウェアへのネットワークアクセス制限機能をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE TRUSTED HOST

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

NTP機能の無効化

概要
EMファームウェアのNTP機能をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE NTP

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

SSH接続機能の無効化

概要
EMファームウェアへのSSH接続をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE SECURESH

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。

SNMP機能の無効化

概要
EMファームウェアのSNMP機能をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE SNMP

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

SNMP TrapAck機能の無効化

概要
EMファームウェアのSNMP TrapAck機能(SNMP Trapに対するAckを待つ機能)をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE SNMP TRAPACK

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

Telnet接続機能の無効化

概要
EMファームウェアへのTelnet接続機能をDisableに設定する。

コマンド名
DISABLE TELNET

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。

ネットワークアクセス許可の有効化

概要
EMファームウェアへのネットワークアクセス制限機能をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE TRUSTED HOST

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足

NTP機能の有効化

概要
EMファームウェアのNTP機能をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE NTP

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足
NTP機能は、後述する各種NTP設定を行った後に有効に切り替えることができる。

SSH接続機能の有効化

概要
EMファームウェアへのSSH接続をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE SECURESH

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

SNMP機能の有効化

概要
EMファームウェアのSNMP機能をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE SNMP

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

SNMP TrapAck機能の有効化

概要
EMファームウェアのSNMP TrapAck機能(SNMP Trapに対するAckを待つ機能)をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE SNMP TRAPACK

引数
なし

実行例

初期値
Disable

補足
TRAPRECEIVER で設定するトラップ通知先は、ESMPRO/ServerManager などのようにTrapack 機能に対応している必要がある。
対応していない通知先を登録した状態で TrapAck 機能を有効にした場合、同じトラップが複数回発行される。

Telnet接続機能の有効化

概要
EMファームウェアへのTelnet接続機能をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE TELNET

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

登録済みのDNSサーバの削除

概要
登録済みのDNSサーバを削除する。

コマンド名
REMOVE NETWORK DNS

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値

補足

登録済みのIPアクセス接続許可リストの削除

概要
コマンド"ADD TRUSTED HOST"で設定したIPアドレスを削除する。

コマンド名
REMOVE TRUSTED HOST

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値

補足

登録済みのSNMPトラップ通知先の削除

概要
登録済みのSNMPトラップ通知先を削除する。

コマンド名
REMOVE SNMP TRAPRECEIVER

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値
なし（未登録）

補足

IPアドレスの設定

概要
EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールのIPアドレスを設定する。
CPUブレード、スイッチモジュールのIPアドレスは、スロット1番のアドレスを意味する。スロット2番以降には、連続したアドレスが設定される。

コマンド名
SET NETWORK ADDRESSRANGE

第一引数
＜EMカード IPアドレス＞

第二引数
＜CPUブレード/スイッチモジュール開始IPアドレス＞

第三引数
＜サブネットマスク＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set network addressrange 192.168.1.150 192.168.1.200
255.255.255.0

Setting IP address 192.168.1.150 & netmask 255.255.255.0 for Enclosure Manager.
Setting IP address 192.168.1.200 for CPU Blade and Switch Module.
Setting netmask 255.255.255.0 for CPU Blade and Switch Module.

Network Address settings successfully updated.
These setting changes will take effect immediately.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

IPアドレスの設定コマンド実行例

初期値
開始IPアドレス
　　EMカード: "192.168.1.8"
　　CPUブレード/スイッチモジュール: "192.168.1.12"

サブネットマスク
　　"255.255.255.0"

補足
EMカード、CPUブレード、スイッチモジュールに対して以下のIPアドレスを割り当てることはできない。
..*.0. *.*.*.255 (* は任意)
設定方法の詳細は、「ネットワーク設定(EMカード)」(29ページ)を参照してください。

ドメイン名の設定

概要
ドメイン名を設定する。

コマンド名
SET NETWORK DOMAIN

引数
＜ドメイン名＞
最大64字までの文字列で指定する。

実行例

初期値
""（未設定）

補足
ドメイン名の設定変更は、EMカードの再起動後に反映されます。
ただし、CPUブレードおよびスイッチモジュールには、反映されません。

デフォルトゲートウェイの設定

概要
外部ネットワークのゲートウェイアドレスを設定する。

コマンド名
SET NETWORK GATEWAY

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値
"0.0.0.0"

補足
デフォルトゲートウェイの設定変更は、EMカードの再起動後に反映されます。

NTPの更新間隔の設定

概要
NTPの更新間隔を指定する。

コマンド名
SET NETWORK NTP POLL

引数
＜更新間隔＞
単位：秒
設定可能な範囲：60～9999

実行例

初期値
720秒

補足

Primary NTPサーバのIPアドレスの設定

概要
Primary NTPサーバのIPアドレスを設定する。

コマンド名
SET NETWORK NTP PRIMARY

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値
"0.0.0.0"

補足

Secondary NTPサーバのIPアドレスの設定

概要
Secondary NTPサーバのIPアドレスを設定する。

コマンド名
SET NETWORK NTP SECONDARY

引数
＜IPアドレス＞

実行例

初期値
"0.0.0.0"

補足

Get動作を許可するSNMPコミュニティ名の設定

概要
Get動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。

コマンド名
SET SNMP COMMUNITY READ

引数
＜コミュニティ名＞
最大31字までの文字列で指定する。

＜コミュニティ名＞として’"’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のコミュニティ名がクリアされる。
例：’SET SNMP COMMUNITY READ ""’

実行例

初期値
"public"

補足
本コマンドは、Get動作に対するコミュニティ名を設定する。
次項に記載する "Get/Set動作を許可するSNMPコミュニティ名の設定"コマンドにおいて、本コマンドと異なるコミュニティ名を指定した場合、いずれのコミュニティ名からもGet動作が動作することに注意すること。
本コマンド実行後は、次のコマンド実行まで、CLIプロンプト表示後10秒以上空けること。

Get/Set動作を許可するSNMPコミュニティ名の設定

概要
Get/Set 動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。

コマンド名
SET SNMP COMMUNITY WRITE

引数
＜コミュニティ名＞
最大31字までの文字列で指定する。

＜コミュニティ名＞として’”’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のコミュニティ名がクリアされる。
例：’SET SNMP COMMUNITY WRITE ""’

実行例

初期値
"public"

補足
本コマンドは、Get/Set 動作の両動作に対するコミュニティ名を設定する。
前項に記載した "Get 動作を許可するSNMPコミュニティ名の設定" コマンドにおいて、本コマンドと異なるコミュニティ名を指定した場合、いずれのコミュニティ名からもGet動作が動作することに注意すること。
本コマンド実行後は、次のコマンド実行まで、CLIプロンプト表示後10秒以上空けること。

Trap動作を許可するSNMPコミュニティ名の設定

概要
Trap 動作を許可するSNMPコミュニティ名を設定する。

コマンド名
SET SNMP COMMUNITY TRAP

引数
<コミュニティ名>
最大31字までの文字列で指定する。

<コミュニティ名>として’”’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のコミュニティ名がクリアされる。
例：’SET SNMP COMMUNITY TRAP ""’

実行例

初期値
"public"

補足
本コマンド実行後は、次のコマンド実行まで、CLIプロンプト表示後10秒以上空けること。

SNMPコンタクト先の設定

概要
SNMPで返却する、コンタクト先を設定する。

コマンド名
SET SNMP CONTACT

引数
＜コンタクト先＞
最大64字までの文字列で指定する。

＜コンタクト先＞として’"’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のコンタクト先がクリアされる。
例：’SET SNMP CONTACT """’

実行例

初期値
"unknown"

補足
本コマンド実行後は、次のコマンド実行まで、CLIプロンプト表示後10秒以上空けること。

SNMPロケーションの設定

概要
SNMPで返却する、ロケーション情報を設定する。

コマンド名
SET SNMP LOCATION

引数
＜ロケーション＞
最大64字までの文字列で指定する。

＜ロケーション＞として’"’（ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中のロケーションがクリアされる。
例：’SET SNMP LOCATION """’

実行例

初期値
"unknown"

補足
本コマンド実行後は、次のコマンド実行まで、CLIプロンプト表示後10秒以上空けること。

ラック内のブレード収納ユニット搭載位置の設定

概要
SNMPで返却する、ラック内のブレード収納ユニット位置情報を設定する。

コマンド名
SET SNMP LOCATION ENCLOSURE

引数
<EIA UNIT数>
10進数字で指定する。
範囲：0～255

実行例

初期値
"0"

補足

ラックの高さ情報の設定

概要
SNMPで返却する、ラックの高さ情報を設定する。

コマンド名
SET SNMP RACKHEIGHT

引数
<EIA UNIT数>
10進数字で指定する。
範囲：0～255

実行例

初期値
"0"

補足

SNMP TrapAckポート番号の設定

概要
SNMP TrapAckをEnableにした際に、Ackを受信するポート番号を設定する。

コマンド名
SET SNMP TRAPACKPORT

引数
10進の数字で指定する。

実行例

初期値
"5002"

補足

ネットワーク設定の表示

概要
ネットワーク設定を表示する。

表示項目
IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ
ドメイン名
DNSサーバアドレス（Primary、Secondary）
EMカードのMACアドレス
Webサーバ設定値（Enable/Disable）
SNMP設定値（Enable/Disable）
SSH設定値（Enable/Disable）
Telnet設定値（Enable/Disable）
TRUSTED HOST設定値（Enable/Disable）
TRUSTED HOSTとして登録したIPアドレス
NTP設定値（Enable/Disable）
NTPサーバアドレス（Primary、Secondary）
NTPサーバへのポーリング間隔
E-Mail通報機能（Enable/Disable）

コマンド名
SHOW NETWORK

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show network

Enclosure Manager Network Settings:
        EM IP Address (Active)      : 192.168.12.4
        EM IP Address (Standby)     : 192.168.12.5
        EM IP Address (Slot#1)      : 192.168.12.6
        EM IP Address (Slot#2)      : 192.168.12.7
        CPU IP Address              : 192.168.1.12 - 192.168.1.27
        SWM IP Address              : 192.168.1.28 - 192.168.1.35
        Netmask                     : 255.255.0.0
        Gateway Address             : 0.0.0.0
        Domain name                 :
        Primary DNS                 : 0.0.0.0
        Secondary DNS               : 0.0.0.0
        EM MAC Address              : 00:10:04:01:00:77

Enclosure Manager Protocol Status:
        Web (HTTP/HTTPS)        : Enabled
        SNMP                    : Enabled
        SecureSH                : Enabled
        Telnet                  : Enabled
        Trusted Hosts           : Disabled
        NTP                     : Disabled
                Primary NTP server      : Not Set
                Secondary NTP server    : Not Set
                Server Poll-Interval    : 720 seconds
        E-Mail Alert            : Disabled

1Z34AB7890(Administrator)>
```

ネットワーク設定表示コマンド実行例

初期値

補足

SNMP設定の表示

概要

SNMP設定を表示する。

表示項目

システム名
ロケーション情報
コンタクト先名称
コミュニティ名（Read/Write/Trap）
トラップ通知先
TrapAck設定値（TrapAck機能の有効・無効設定）
ラックの高さ(U)
ラック内のブレード収納ユニットの搭載位置(U)

コマンド名

SHOW SNMP

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show snmp

SNMP Configuration:
        Status                  : Enabled
        System Name             : 1Z34AB7890
        System Location         : unknown
        System Contac           : unknown
        Read Community Name     : public
        Write Community Name    : public
        Default Trap Community Name:            public
        Trap Receiver IP Address    : 192.168.1.14(default trap community name is used)
                                      192.168.1.40(default trap community name is used)
                                      192.168.1.73(default trap community name is used)
        Trap ack port number    : 5002
        Trap ack                : DISABLE
        Rack Height(U)          : 33
        Enclosure Location(U)   : 0

1Z34AB7890(Administrator)>
```

SNMP設定表示コマンド実行例

初期値

補足

SNMPトラップテスト

概要
テスト用のSNMPトラップを発行する。

コマンド名
TRAPTEST

引数
なし

実行例

初期値

補足
本コマンドを実行するには、事前にSNMPトラップ通知先（SNMP TRAPRECEIVER）を登録しておく必要がある。

筐体管理コマンド

Config設定のダウンロード(リストア)

概要
引数で指定したURLからEMファームウェアのConfig情報をダウンロードし、設定を反映する。
設定変更が正常終了すると、設定を反映させるために EMファームウェアは自動的にリブートする。

コマンド名
DOWNLOAD CONFIG

引数
＜URL指定＞

実行例
Configファイル格納先の例
IPアドレス:192.168.1.68
パス:sigmablade/config2.txt(相対パスを指定してください)

```
1Z34AB7890(Administrator)> download config ftp://[user]:[pass]@192.168.1.68/
sigmablade/config2.txt

Entering anything other than 'YES' will result in the command not executing.

Are you sure you want to download the Enclosure Manager's configuration? yes


SET ENCLOSURE ASSET TAG "tag"


Asset tag changed.


        ＜省略＞

SET EM NAME "EM-001004010077"

Enclosure Manager name changed to EM-001004010077.

Exit

Script completed.

Restarting the Enclosure Manager in 10 seconds.
Enclosure Manager is rebooting.
Please stand by...
Restarting system.
```

Config設定ダウンロードコマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。
自動的にEMカードが再起動した後に「FORCE TAKEOVER」コマンドを実行すること。
本コマンドでは、Webコンソールで行う設定(ブート制御の設定など)についてはリストアされません。また、Webコンソールを使用してバックアップしたConfig設定を、本コマンドでリストアすることもできません。
通常はWebコンソール機能を使用して設定のバックアップ(P.329ページ)を行ってください。

アクティブEMの切り替え指示

概要
EMカードを2台搭載している場合、アクティブEMとスタンバイEMを強制的に切り替える。

コマンド名
FORCE TAKEOVER

引数
なし

実行例

初期値

補足
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。

EMファームウェアの再起動

概要
EMファームウェアを再起動する。

コマンド名
RESTART EM

引数
なし

実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。
EMカードの再起動中は、モジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをしないこと。(途中でモジュールの取り付け／取り外しまたは電源のON/OFFをするとアップデートが完全に行われないばかりか、装置が正常に動かなくなるおそれがあります。) また、搭載モジュールのIDランプのON/OFF操作をしないこと。(適切にIDランプが点灯・消灯しない場合があります。)

CLI自動終了機能の設定

概要
CLIを操作しない状態で放置した場合に、自動的にCLIが終了するまでの時間を指定する。

コマンド名
SET AUTOLOGOUT

引数
<ログアウト時間>
10進の数字で指定する。範囲：0～60 単位：分
0指定の場合は、CLI自動終了機能が無効となる。

実行例

初期値
60分

補足
本コマンドは、CLI実行中のセッションでのみ設定が有効となる。

日時設定

概要
EMの日時情報を設定する。

コマンド名
SET DATE

第一引数
＜日付＞

形式

"MMDDhhmm{{CC}YY} "

MM：月を指定する。
DD：日を指定する。
hh：時間（Hour）を指定する。
mm：分を指定する。
CCYY：西暦を指定する。

第二引数
＜タイムゾーン＞（省略可能）
Timezone：タイムゾーンを指定する。省略時は、現在のタイムゾーンが使用される。

実行例

初期値
タイムゾーン設定："JST"

補足
設定可能なタイムゾーンは「付録」（218ページ）を参照のこと。
（タイムゾーンの設定変更は、EMカードの再起動後に反映されます。）

イベント表示機能の設定

概要
特定のイベントが発生した際にCLIコンソールに表示する、イベント表示機能の有効／無効を設定する。

表示イベント一覧

ブレード収納ユニットステータス変更
スイッチモジュールステータス変更
スイッチモジュールリセット
スイッチモジュール挿入
スイッチモジュール抜去
スイッチモジュール温度変更
ユーザアカウントDisable※
ユーザアカウント削除※
ログイン中のユーザに対するアクセス権の変更発生※

ブレード収納ユニット名変更
冷却ステータス変更
FANステータス変更
FANユニット挿入
FANユニット抜去
電源ユニットステータス変更
電源ユニット挿入
電源ユニット抜去
電源冗長モード変更
CPUブレードステータス変更
CPUブレード挿入
CPUブレード抜去
EMリブート
EMカード挿入
EMカード抜去
EMカードのTAKEOVER

※ このイベントが発生すると、CLIが終了してログイン中のユーザアカウントは強制的にログアウトさせられる。

コマンド名
SET DISPLAY EVENT

引数
"ON" ¦ "OFF"

実行例

初期値
"OFF"

補足
本コマンドによるイベント表示のON/OFF設定は、ログイン中のCLIコンソールにのみ適用される。
CLIコンソールをログアウトすると、設定した内容は無効となる。
CLIコンソールにログインする際は、本イベント表示機能の初期状態はOFFである。

ブレード収納ユニットの資産番号の設定

概要
ブレード収納ユニットの資産番号を設定する。

コマンド名
SET ENCLOSURE ASSET TAG

引数
＜資産番号＞
最大32字までの文字列で指定する。

＜資産番号＞として’ "’ （ダブルクォーテーション）でくくり、その中に文字列を指定しない場合は、現在設定中の資産番号がクリアされる。
例：’ SET ENCLOSURE ASSET TAG ""’

実行例

初期値
""（未設定）

補足

ブレード収納ユニット名の設定

概要
ブレード収納ユニットの名称を設定する。

コマンド名
SET ENCLOSURE NAME

引数
＜筐体名＞
32文字以内の半角英数字と一部記号で指定する。ただし、先頭文字は半角英字で指定する。

実行例

初期値
"ブレード収納ユニットシリアル番号" に一致する。

補足

ブレード収納ユニットのIDランプの設定

概要
ブレード収納ユニットに配置されるIDランプを点灯・消灯する。

コマンド名
SET ENCLOSURE UID

引数
"ON" ¦ "OFF"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set enclosure uid on

Enclosure's Unit Identification is ON
1Z34AB7890(Administrator)>
```

ブレード収納ユニットIDランプ操作コマンド実行例

初期値

補足

電源制御ポリシーの設定

概要
電力制御のポリシーを設定する。

コマンド名
SET POWER POLICY

引数
SET POWER POLICY [PERFORMANCE ¦ REDUNDANCY ¦ RECOVERABLE]
PERFORMANCE :CPU性能モード（冗長が維持できない状態においても、電力使用を優先する）
REDUNDANCY： 冗長維持モード（電力の冗長を維持する）
RECOVERABLE :冗長回復モード（電力の冗長を回復する）

実行例

初期値
CPU性能モード

補足
電源制御ポリシーおよび電源冗長モードは、AC電源の再投入を行った後に反映されます。
電源冗長モードを“電源非冗長モード”にする場合は、事前に本コマンドで電源制御のポリシーを“CPU性能モード”に設定してください。
電源冗長モードが“個別電源冗長モード”または“電源非冗長モード”の時、“CPU性能モード”を使用した場合でも電源ユニット6台構成における[6+0]の状態は非サポートです。

電源冗長モードの設定

概要
電力の冗長モードを設定する。

コマンド名
SET POWER REDUNDANCY

引数
[AC ¦ POWERSUPPLY ¦ NONE]
AC：AC二重化モード(N+N冗長)
POWERSUPPLY：個別電源冗長モード(N+1冗長)
NONE: 電源非冗長モード

実行例

初期値
個別電源冗長モード

補足
電源制御ポリシーおよび電源冗長モードは、AC電源の再投入を行った後に反映されます。
電源冗長モードを「電源非冗長モード」にする場合は、事前に「SET POWER POLICY」コマンドで電源制御のポリシーを「CPU性能モード」に設定してください。

タイムゾーンの設定

概要
EMファームウェアに対してタイムゾーンを指定する。

コマンド名
SET TIMEZONE

引数
<タイムゾーン>
または
Etc <タイムゾーン>

実行例
タイムゾーンを指定する場合の実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set timezone JST

        Date: 2012-04-24T16:12:59+0900 Time Zone: JST

1Z34AB7890(Administrator)>
```

GMTオフセットを指定する場合の実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set timezone Etc GMT-9

        Date: 2012-04-24T16:13:56+0900 Time Zone: GMT-9

1Z34AB7890(Administrator)>
```

初期値
タイムゾーン設定："JST"

補足
設定可能なタイムゾーンは「付録」（218ページ）を参照のこと。
（タイムゾーンの設定変更は、EMカードの再起動後に反映されます。）

ブレード収納ユニット内の全構成情報の表示

概要

以下のコマンドを順次実行した結果を表示する。(以下のコマンド実行結果以外の情報も表示されます。)

SHOW DATE
SHOW VERSION
SHOW RACK NAME
SHOW RACK UID
SHOW ENCLOSURE INFO
SHOW ENCLOSURE STATUS
SHOW SIGMABLADEMONITOR LCD
SHOW SERVER LIST
SHOW SERVER INFO ALL
SHOW SERVER STATUS ALL
SHOW SERVER PORT MAP ALL
SHOW SERVER POWERONDELAY
SHOW SWITCH LIST
SHOW SWITCH INFO ALL
SHOW SWITCH STATUS ALL
SHOW SWITCH PORT MAP ALL
SHOW ENCLOSURE TEMP
SHOW ENCLOSURE FAN ALL
SHOW ENCLOSURE FAN SPEED
SHOW ENCLOSURE FAN SENSOR
SHOW ENCLOSURE POWERSUPPLY ALL
SHOW POWER
SHOW NETWORK
SHOW SNMP
SHOW USER LIST
SHOW EM INFO
SHOW EM STATUS
SHOW EM NETWORK
SHOW TOPOLOGY
SHOW MAILALERT

コマンド名

SHOW ALL

引数

なし

実行例

初期値

補足

CLI自動終了機能の設定表示

概要
CLIを操作しないで状態で放置した場合に、自動的にCLIが終了するまでの時間設定を表示する。

コマンド名
SHOW AUTOLOGOUT

引数
なし

実行例

初期値

補足

Config設定情報のCLIコマンド形式による表示

概要
EMファームウェアに設定されているConfig設定情報を、CLIコマンド形式で表示する。

コマンド名
SHOW CONFIG

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show config
#NEC SIGMABLADE Enclosure Manager 04.20
#Script Generated by Administrator
#Generated on: Mon May 26 16:31:03 JST 2008


#Set Enclosure Information
SET ENCLOSURE ASSET TAG ""
SET ENCLOSURE NAME "NEC01A00000"
SET RACK NAME "Test_Hotaka"
SET RACK UID "NEC01A 00000"
SET DSGPASSWORD "guest"
SET DSGSTATE 1


#Set Network Information
#NOTE: Setting your network information through a script while
#      remotely accessing the server could drop your connection.
#      If your connection is dropped this script may not execute to conclusion.
SET NETWORK ADDRESSRANGE 192.168.15.8 192.168.15.12 255.255.240.0
SET NETWORK GATEWAY 192.168.15.232
SET NETWORK DOMAIN ""
ADD NETWORK DNS 0.0.0.0
ADD NETWORK DNS 0.0.0.0


#Configure Protocols
ENABLE HTTPS
ENABLE SECURESH
ENABLE TELNET

#Configure Trusted Hosts
#REMOVE TRUSTED HOST ALL
DISABLE TRUSTED HOST

#Configure NTP
SET NETWORK NTP PRIMARY 0.0.0.0
SET NETWORK NTP SECONDARY 0.0.0.0
SET NETWORK NTP POLL 720
DISABLE NTP
```

Config設定情報表示実行例

実行例（続き）

```
#Set SNMP Information
SET SNMP CONTACT "unknown"
SET SNMP LOCATION "unknown"
SET SNMP COMMUNITY READ "public"
SET SNMP COMMUNITY WRITE "public"
SET SNMP COMMUNITY TRAP "public"
SET SNMP RACKHEIGHT 20
SET SNMP LOCATION ENCLOSURE 0
SET SNMP TRAPACKPORT 5002
DISABLE SNMP TRAPACK
ADD SNMP TRAPRECEIVER 192.168.15.232
ADD SNMP TRAPRECEIVER 0.0.0.0
ADD SNMP TRAPRECEIVER 0.0.0.0
ENABLE SNMP

#Uncomment following line to remove all user accounts currently in the system
#REMOVE USERS ALL

#Create Users
ADD USER test1
SET USER CONTACT test1 ""
SET USER FULLNAME test1 ""
SET USER ACCESS test1 "USER"
ASSIGN EM test1
ASSIGN SERVER 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16 test1
ASSIGN SWM 1,2,3,4,5,6,7,8 test1 ENABLE USER test1
ADD USER test2
SET USER CONTACT test2 ""
SET USER FULLNAME test2 ""
SET USER ACCESS test2 "USER"
ENABLE USER test2
ADD USER suruga
SET USER CONTACT suruga ""
SET USER FULLNAME suruga ""
SET USER ACCESS suruga "OPERATOR"
ASSIGN EM suruga
ASSIGN SERVER 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16 suruga
ENABLE USER suruga


#Set Enclosure Manager Information
SET EM NAME 1 "EM-003012FD548A"
SET EM NAME 2 "EM-003013FD548C"
SET EM LANGUAGE JAPANESE


#Set Power Information
SET POWER REDUNDANCY POWERSUPPLY
SET POWER POLICY
SET POWER SAVINGS ON
SET POWER LIMIT OFF
```

Config設定情報表示実行例

実行例（続き）

```
#Set SERVER POWERONDELAY Information
SET SERVER POWERONDELAY 1 0
SET SERVER POWERONDELAY 2 0
SET SERVER POWERONDELAY 3 0
SET SERVER POWERONDELAY 4 0
SET SERVER POWERONDELAY 5 0
SET SERVER POWERONDELAY 6 0
SET SERVER POWERONDELAY 7 0
SET SERVER POWERONDELAY 8 0
SET SERVER POWERONDELAY 9 0
SET SERVER POWERONDELAY 10 0
SET SERVER POWERONDELAY 11 0
SET SERVER POWERONDELAY 12 0
SET SERVER POWERONDELAY 13 0
SET SERVER POWERONDELAY 14 0
SET SERVER POWERONDELAY 15 0
SET SERVER POWERONDELAY 16 0

#Set SIGMABLADE MONRITOR Information
SET SIGMABLADEMONITOR BACKLIGHT 1
ENABLE SIGMABLADEMONITOR PASSWORD

#Set SYSLOG Information
SET SYSLOG SERVER 192.168.1.2
ENABLE SYSLOG

#Set TOPOLOGY Information
DISABLE TOPOLOGY

#Set E-Mail Alert Information
DISABLE MAILALERT
SET MAILALERT LEVEL WARNING
SET MAILALERT ADDRESS1 ""
SET MAILALERT ADDRESS2 ""
SET MAILALERT ADDRESS3 ""
SET MAILALERT FROMADDR ""
SET MAILALERT REPLYTO ""
SET MAILALERT SUBJECT ""
SET MAILALERT SMTPSERVER 0.0.0.0
SET MAILALERT SMTPPORT 25
DISABLE MAILALERT SMTPAUTH
SET MAILALERT SMTPAUTH USER ""
SET MAILALERT SMTPAUTH ENCODEDPASSWORD "0x3a, 0xbd, 0xc3, 0x95, 0xe4,
0xa6, 0x27, 0xc8, 0xd9, 0xf1


#End of Script
Exit

1Z34AB7890(Administrator)>
```

Config設定情報表示実行例

初期値

補足
本コマンドは、Webコンソールで行う設定(ブート制御の設定など)については対象外です。また、以下のCLIで行う設定も対象外です。
- 各ユーザーのパスワード
- タイムゾーン

日時表示

概要
EMファームウェアの日時情報・タイムゾーン設定を表示する。

コマンド名
SHOW DATE

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show date

        Date: 2006-07-03T22:59:59+09:00 Time Zone: JST

1Z34AB7890(Administrator)>
```

日時表示コマンド実行例

初期値

補足

イベント表示機能の設定状態表示

概要
特定のイベントが発生した際にCLIコンソールに表示するイベント表示機能の有効／無効の設定状態を表示する。

コマンド名
SHOW DISPLAY EVENT

引数
なし

実行例

初期値

補足

FANユニット情報の表示

概要

搭載されるFANユニットの情報を表示する。

表示項目
ステータス
冗長状態
回転数
パーツ番号

コマンド名

SHOW ENCLOSURE FAN

引数

<FANユニット番号> ¦ "ALL"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show enclosure fan all

Fan #10 information:
      Status              : OK
      Speed               : 75, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 29
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #9 information:
      Status              : OK
      Speed               : 77, 54 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 29
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK
```

FANユニット情報表示コマンド実行例

実行例（続き）

```
Fan #8 information:
      Status              : OK
      Speed               : 75, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 21
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #7 information:
      Status              : OK
      Speed               : 76, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 26
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #6 information:
      Status              : OK
      Speed               : 76, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 29
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Statu    :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #5 information:
      Status              : OK
      Speed               : 77, 54 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 28
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK
```

FANユニット情報表示コマンド実行例

実行例（続き）

```
Fan #4 information:
      Status              : OK
      Speed               : 75, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 28
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #3 information:
      Status              : Fan Unit Empty

Fan #2 information:
      Status              : OK
      Speed               : 76, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 27
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

Fan #1 information:
      Status              : OK
      Speed               : 76, 53 percent of Maximum speed
      Maximum speed       : 8082, 5689
      Minimum speed       : 2404, 1692
      Power consumed      : 27
      Product SKU P/N     : [N????-???]
      Version             : FR1.0
      Diagnostic Status   :
            Internal Data             OK
            Location                  OK
            Device Failure            OK
            Device Degraded           OK

1Z34AB7890(Administrator)>
```

FANユニット情報表示コマンド実行例

初期値

補足

ブレード収納ユニット情報の表示

概要

ブレード収納ユニット情報を表示する。

表示項目
ブレード収納ユニット名
ブレード収納ユニット形式
EMファームウェアバージョン
EMカードバージョン
ブレード収納ユニットパーツ番号
シリアル番号
資産番号
EMカードのMACアドレス
など

コマンド名

SHOW ENCLOSURE INFO

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show enclosure info

Enclosure Information:
      Enclosure Name      : 1Z34AB7890
      Enclosure Type      : SIGMABLADE-H Enclosure
      EM HW Version       : 1.00
      EM FW Version       : 01.00
      Product P/N         : 412152-B21
      Product S/N         : 1Z34AB7890
      UUID                : 091Z34AB7890
      Asset Tag           :
      Chassis Spare P/N   : 412152-B21
      PDU Part Number     : 000000-000

      Enclosure Manager Tray Information:
            Type          : SIGMABLADE-H EM Tray
            Board P/N     : 416000-001
            Board S/N     : 12345678901234

1Z34AB7890(Administrator)>
```

ブレード収納ユニット情報表示コマンド実行例

初期値

補足

電源ユニット情報の表示

概要

ブレード収納ユニットに搭載される電源ユニットの情報を表示する。

表示項目
電源ユニットのステータス
AC入力状態
供給容量
パーツ番号
シリアル番号
省電力状態

コマンド名

SHOW ENCLOSURE POWERSUPPLY

引数

＜電源ユニット番号＞ ¦ "ALL"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)>  show enclosure powersupply all

Power Unit Information and Status

Power Unit #6 Information:
      Status                 : OK
      AC Input Status        : OK
      Capacity               : 2250 Watts
      Current Power Output : 0 Watts (POWER SAVING)
      Product S/N            : 5A22B0AHLTA0A7
      Diagnostic Status      :
            Internal Data            OK
            Device Failure           OK
            AC Cord                  OK

Power Unit #5 Information:
      Status                 : OK
      AC Input Status        : OK
      Capacity               : 2250 Watts
      Current Power Output : 126 Watts
      Product S/N            : 5A22B0AHLTA0A4
      Diagnostic Status      :
            Internal Data            OK
            Device Failure           OK
            AC Cord                  OK

Power Unit #4 Information:
      Status                 : Power Unit Slot Empty

Power Unit #3 Information:
      Status                 : Power Unit Slot Empty
```

電源ユニット情報表示コマンド実行例

実行例（続き）

```
Power Unit #2 Information:
      Status                : OK
      AC Input Status       : OK
      Capacity              : 2250 Watts
      Current Power Output  : 126 Watts
      Product S/N           : 5A22B0AHLTA05N
      Diagnostic Status:
            Internal Data         OK
            Device Failure        OK
            AC Cord               OK

Power Unit #1 Information:
      Status                : OK
      AC Input Status       : OK
      Capacity              : 2250 Watts
      Current Power Output  : 126 Watts
      Product S/N           : 5A22B0AHLTA066
      Diagnostic Status:
            Internal Data         OK
            Device Failure        OK
            AC Cord               OK

1Z34AB7890(Administrator)>
```

電源ユニット情報表示コマンド実行例

初期値

補足

Diagnostic Status について

Internal Data	FRU情報の正当性。OK：正常、Failed：異常（チェックサムエラー等）
Device Failure	故障状態。OK：正常動作。Failed：故障、Not Performed：チェック未実施
AC Cord	ACケーブル接続状態。OK：正常、Failed：異常

省電力状態について

省電力状態の電源ユニットは、項目 " Current Power Output "　が "0 Watts (POWER SAVING)" として表示される。

ブレード収納ユニットステータスの表示

概要

ブレード収納ユニットステータスを表示する。

表示項目
稼動状態
IDランプ状態
電源ステータス・容量

コマンド名

SHOW ENCLOSURE STATUS

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show enclosure status

Enclosure:
      Status : OK
      ID LED : Off
      Diagnostic Status:
            Internal Data                 OK

Enclosure Manager:
      Status: OK

Power Subsystem:
      Status                : OK
      Redundancy            : Power Supply Redundant
      Total Capacity        : 9000 Watts
      Redundant Capacity    : 2250 Watts
      InputPower            : 782 VA

Cooling Subsystem:
      Status                        : OK

1Z34AB7890(Administrator)>
```

ブレード収納ユニットステータス表示コマンド実行例

初期値

補足

Diagnostic Status について
Internal Data　FRU情報の正当性。OK：正常、Failed：異常（チェックサムエラー等）
Redundancy　冗長状態。OK：冗長、Failed：非冗長、Not Performed：チェック未実施

ブレード収納ユニット温度の表示

概要
ブレード収納ユニット温度を表示する。

コマンド名
SHOW ENCLOSURE TEMP

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show enclosure temp

Locale                      Status      Temp         Caution   Critical
--------------------------- ----------  -----------  --------- --------
Enclosure                     OK        30C/ 86F       ---       ---
Enclosure Manager    1        OK        30C/ 86F       75C       80C
Blade Slot           1        ---        0C/ 32F       ---       ---
Blade Slot           8        ---        0C/ 32F       ---       ---
Blade Slot           9        ---        0C/ 32F       ---       ---
Blade Slot          16        ---        0C/ 32F       ---       ---
Switch Module        3        OK          ----        ---       ---
Switch Module        4        OK          ----        ---       ---

1Z34AB7890(Administrator)>
```

ブレード収納ユニット温度表示コマンド実行例

初期値

補足
B120d以降のCPUブレードは本コマンドでの監視対象外のため、当該のBlade SlotのStatusは「N/A」となります。
そのため、B120d以降のCPUブレードのみがDC電源投入されている場合、他のモジュールに異常がない場合は「Enclosure」のStatusは「Unknown」と表示されます。

電源関連の設定情報の表示

概要

電源関連の設定情報を表示する。

- 電源冗長モード（個別電源冗長モード(N+1冗長)/AC二重化モード(N+N冗長)/電源非冗長モード）
- 電源制御ポリシー（CPU性能モード/冗長維持モード/冗長回復モード）
- 電源容量
- 余剰電源のON/OFF制御状態
- 入力電源の上限値

コマンド名

SHOW POWER

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show power
Redundancy Configuration: Power Supply Redundant

Power Policy Configuration: REDUNDANCY
Dynamic Power Savings     : Off
Limit AC Output           :  4500 W

Capacity:                       6750 W
Redundant Capacity:             2250 W
Redundant Power:                4500 W
Power Allocated:                1060 W
Consumed Power:                 559 VA
Maximum Consumable Power:       5472 VA
1Z34AB7890(Administrator)>
```

電源関連の設定情報表示コマンド実行例

初期値

電源冗長モード　　：個別電源冗長モード(N+1冗長)
電源制御ポリシー　　：CPU性能モード
余剰電源のON/OFF制御　：ON(常に有効)
入力電力の上限値　　：OFF(無効)

補足

EMカード/EMファームウェア バージョン表示

概要
EMカード/EMファームウェア のバージョンを表示する。

コマンド名
SHOW VERSION

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show version

        Enclosure Manager Hardware Version: FR0.1
        Enclosure Manager Firmware Version: 04.00  (2008.6.24  23:35:58)

1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMカード/EMファームウェアバージョン表示コマンド実行例

初期値

補足

EMファームウェアアップデート

概要
EMファームウェアをアップデートする。
指定したURL（http、ftp、tftp）からEMファームウェアイメージをダウンロードし、自動的に更新する。更新後、更新したイメージを適用するためにEMファームウェアは自動リブートする。

コマンド名
UPDATE IMAGE

引数
＜URL指定＞

実行例
ファームウェアイメージ設置先の例
IPアドレス:192.168.1.68
パス:/emfw0010.tgz（サーバ側で指定したディレクトリからの相対パスを指定してください）

```
1Z34AB7890(Administrator)> update image tftp://192.168.1.68/emfw0010.tgz

Entering anything other than 'YES' will result in the command not executing.

Are you sure you want to update the Enclosure Manager's firmware? YES

Downloading image from tftp://192.168.1.68/emfw0010.tgz...
Verifying signature...successful!

The flash process begins in 10 seconds.
Flashing.100%
New firmware image flashed.
Enclosure Manager is rebooting.
Please Standby...
Restarting system.
NEC SIGMABLADE Enclosure Manager booting...
```

EMファームウェアアップデートコマンド実行例

初期値

補足
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。

Config設定のアップロード(バックアップ)

概要
引数で指定したURLへEMファームウェアのConfig情報をアップロードする。

コマンド名
UPLOAD CONFIG

引数
＜URL指定＞

実行例
Configファイル格納先の例
IPアドレス:192.168.1.68
パス:/config2.txt(サーバ側で指定したディレクトリからの相対パスを指定してください)

```
1Z34AB7890(Administrator)> upload config ftp://[user account]:[password]@192.168.1.
68/config.txt

Successfully uploaded the configuration script.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

Config設定アップロードコマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザのみである。
本コマンドでは、Webコンソールで行う設定(ブート制御の設定など)につ いてはバックアップされません。また、本コマンドでバックアップしたConfig設定を、Webコンソールを使用してリストアすることもできません。
通常はWebコンソールを使用して設定のバックアップ(P.329ページ)を行ってください。

余剰電源 ON/OFF制御

概要

ブレード収納ユニットに搭載されるブレード・スイッチモジュール・その他装置の消費電力に対して電源ユニットが供給する電力に余裕がある場合、電源ユニットをOFFすることで省電力を実現する。

コマンド名

・SET POWER SAVINGS

引数

“ON” ¦ “OFF”

ON　：余剰電源 ON/OFF 制御機能を有効にする。

OFF　：本製品では設定できない(余剰電源ON/OFF制御機能は常に有効)。

実行例

"ON"を指定した場合の実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set power savings on
Power Settings were updated to:
Redundancy Configuration     : Power Supply Redundant

Power Policy Configuration   : REDUNDANCY
Dynamic Power Savings        : On
Limit DC Output              : Not Set

Capacity                     : 11250 W
Redundant Capacity           :  2250 W
Redundant Power              :  9000 W
Power Allocated              :  1289 W
Consumed Power               :   219 VA
Maximum Consumable Power     : 10944 VA

1Z34AB7890(Administrator)>
```

"OFF"を指定した場合の実行例

```
test-hotaka-rack(Administrator)> set power savings off

OFF: This feature is not supported.
test-hotaka-rack(Administrator)>
```

余剰電源 ON/OFF制御コマンド実行例

初期値

"ON" （常に有効）

補足

本機能は、コマンドを投入して正常終了した時点から有効となる。

入力電力の上限値

概要
ブレード収納ユニット内で利用できる電力の上限値を設定する。
本設定が有効な場合、EMファームウエアは 構成されている電源ユニットおよび電源制御のモード／ポリシーからくる制限に加えて、引数で指定されたワット数以上の電力を確保しないように動作する。

コマンド名
SET POWER LIMIT

引数
最大電力値（ワット数）¦ “OFF”
指定可能なAC電力値：1～65535
OFF：入力電力の上限値を無効にする。
設定できる最小値は 1 ワットである。"OFF"を指定した場合は上限値はなくなり、構成されている電源ユニットおよび電源制御のモード／ポリシーからくる制限に基づいて EMファームウエア は電力を確保する。
最大電力値として実際にブレード収納ユニットに搭載される電源ユニットが供給する以上の値を設定した場合、搭載される電源ユニットの出力値に基づいた制御が行われる。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set power limit 2000
Power Settings were updated to:
Redundancy Configuration      : Power Supply Redundant

Power Policy Configuration    : REDUNDANCY
Dynamic Power Savings         : Off
Limit AC Output               :  2000 W

Capacity                      : 11250 W
Redundant Capacity            :  2250 W
Redundant Power               :  9000 W
Power Allocated               :  1289 W
Consumed Power                :   189 VA
Maximum Consumable Power      : 10944 VA

1Z34AB7890(Administrator)>
```

入力電力の上限値コマンド実行例

初期値
"OFF" （無効）

補足
本機能は、コマンドを投入して正常終了した時点から有効となる。

FANユニット回転速度の表示

概要
FANユニットのステータス(回転速度)を表示する。

コマンド名
SHOW ENCLOSURE FANSPEED

引数
なし

実行例

初期値

補足

FANユニット電圧/電流の表示

概要
FANユニットのステータス(電圧、電流)を表示する。

コマンド名
SHOW ENCLOSURE FANSENSOR

引数
なし

実行例

初期値

補足

CPUブレード管理コマンド

CPUブレードの電源OFF

概要
指定したCPUブレードにDC電源切断(OFF)を指示する。

コマンド名
POWEROFF SERVER

第一引数
＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ - ＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ , ＜CPUブレード番号＞¦"ALL"

＜CPUブレード番号＞と＜CPUブレード番号＞を’-’（ハイフン)または’,’（カンマ)で連結する場合、’ -’（ハイフン)または’,’（カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

第二引数
"FORCE"（省略可能）
"FORCE"を選択すると、強制的に電源をOFFする。(CPUブレードの電源スイッチを、既定の秒数(CPUブレードの種類により異なる)以上押した場合と同様の動作をします。)

実行例

初期値

補足
また、CPUブレードや筐体の状態によっては、指示成功時もOFF状態とならない場合があります。

CPUブレードの電源ON

概要
指定したCPUブレードにDC電源投入(ON)を指示する。

コマンド名
POWERON SERVER

第一引数
<CPUブレード番号>¦<CPUブレード番号> - <CPUブレード番号>¦<CPUブレード番号> , <CPUブレード番号>¦"ALL"

<CPUブレード番号>と<CPUブレード番号>を’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)で連結する場合、’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

実行例

初期値

補足
また、CPUブレードや筐体の状態によっては、指示成功時もON状態とならない場合があります。

CPUブレードの再起動

概要
指定したCPUブレードを再起動(RESET)する。

コマンド名
REBOOT SERVER

第一引数
＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ - ＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ , ＜CPUブレード番号＞¦"ALL"

＜CPUブレード番号＞と＜CPUブレード番号＞を’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)で連結する場合、’ -’(ハイフン)または’,’(カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

実行例

初期値

補足
画面の指示に従って"YES"の文字を入力すること。
「REBOOT SERVER」コマンドは、CPUブレードのRESETスイッチを押した場合と同じ動作をする。(Windows Server 2003またはWindows Server 2003 x64 Editionsをご利用の場合、再起動後に「原因不明のシャットダウンまたは再起動です。」と表示されますが正常な動作です。)

CPUブレードのIDランプの制御

概要
指定したCPUブレードのIDランプボタンを点灯・消灯する。

コマンド名
SET SERVER UID

第一引数
＜CPUブレード番号＞

第二引数
"ON" ¦ "OFF"

実行例

初期値

補足

CPUブレード情報の表示

概要

指定したCPUブレードの情報を表示する。

表示項目
ブレードタイプ
ブレード名称
ブレード形状
パーツ番号
シリアル番号
LANのMACアドレス
CPUブレード BMCのIPアドレス
ブレード用メザニンカード情報
BMCの IP Address Source情報
PIA／SDRのバージョン情報

コマンド名

SHOW SERVER INFO

引数

＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ - ＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ , ＜CPUブレード番号＞¦"ALL"
＜CPUブレード番号＞と＜CPUブレード番号＞を’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）で連結する場合、’ -’（ハイフン）または’,’（カンマ）の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server info 16

Blade #16 Information:
        Product Name      : Express5800/B120a-d

        Blade Name        : test-Blade-06
        Product P/N       : [N8400-086]
        Product S/N       : 1234567890
        Blade Type        : CPU Blade
        Blade Size        : Half-height, single-wide (HHSW)

Management Processor Information:
        Firmware Version  : 01.10
        PIA Version       : 01.11
        SDR Version       : 05.20
        IP Address        : 192.168.1.27
        IP Address Source : DHCP
        MAC Address       : 00:30:13:B8:BC:C7

Mezzanine Card Information:
        Installable Mezzanine Card Number  : 2

Mezzanine Card #1 Information:
        Manufacturer      : NEC
        Name              : 1000BASE-T(2ch)
        Model Number      : [N8403-021]
        Version           : A1.
        Serial Number     : ES_FRURev0.2

Mezzanine Card #2 Information:
        Manufacturer      : NEC
        Name              : 1000BASE-T(4ch)
        Model Number      : [N8403-022]
        Serial Number     : ES_FRURev0.2

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレード情報表示コマンド実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server info 16

Blade #16 Information:
        Product Name      : Express5800/B120a-d

        Blade Name        : test-Blade-06
        Product P/N       : [N8400-086]
        Product S/N       : SIGMA_EM_VSERIAL_06-1F
                            (1234567890)
        Blade Type        : CPU Blade
        Blade Size        : Half-height, single-wide (HHSW)

Management Processor Information:
        Firmware Version  : 01.10
        PIA Version       : 01.11
        SDR Version       : 05.20
        IP Address        : 192.168.1.27
        IP Address Source : DHCP
        MAC Address       : 00:30:13:B8:BC:C7

Mezzanine Card Information:
        Installable Mezzanine Card Number  : 2

Mezzanine Card #1 Information:
        Manufacturer      : NEC
        Name              : 1000BASE-T(2ch)
        Model Number      : [N8403-021]
        Version           : A1.
        Serial Number     : ES_FRURev0.2

Mezzanine Card #2 Information:
        Manufacturer      : NEC
        Name              : 1000BASE-T(4ch)
        Version           : A1.
        Serial Number     : ES_FRURev0.2

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレード情報表示コマンド実行例 (仮想号機番号設定時)

初期値

補足

本コマンドで表示されるブレード名称は、CPUブレード上でESMPRO/ServerAgentを使用されている場合は、OS上のホスト名になります。使用されていない場合は、Webコンソールのブレード名設定(P.334ページ)またはOSDメニューのCPUブレード名の変更(P.412ページ)で設定した名称になります。

BMCのIP Address Source情報は、CPUブレードから IP Address Source を取得できた場合のみ表示を行う。

PIA／SDRのバージョン情報は、CPUブレードから PIA Version、SDR Versionを取得できた場合のみ表示を行う。

仮想号機番号が設定されている場合、シリアル番号には仮想号機番号と括弧つきの工場出荷時のシリアル番号を表示する。

CPUブレード情報の一覧表示

概要

指定されたCPUブレードの情報を一覧表示する。

表示項目
ブレード名称
ブレードタイプ
CPUブレード BMCの IPアドレス
稼動ステータス
IDランプ状態

コマンド名

SHOW SERVER LIST

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server list

Slot Blade Name                Type  IP Address       Status   Pwr  UID
---- ----------------------------- -----  ----------------- --------  ----  -----
   1 R2-EE-15                   CPU  192.168.1.178   OK       On   Off
   2 [Absent]
   3 [Absent]
   4 [Absent]
   5 [Absent]
   6 [Absent]
   7 [Absent]
   8 [Absent]
   9 R2-EE-16                   CPU  192.168.1.188   OK       On  Off
  10 [Absent]
  11 [Absent]
  12 [Absent]
  13 [Absent]
  14 [Absent]
  15 [Absent]
  16 [Absent]
Totals: 2 server blades installed, 2 powered on.

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレード情報表示コマンド実行例

初期値

補足

本コマンドで表示されるブレード名称は、CPUブレード上でESMPRO/ServerAgentを使用されている場合は、OS上のホスト名になります。使用されていない場合は、Webコンソールのブレード名設定(P.334ページ)またはOSDメニューのCPUブレード名の変更(P.412ページ)で設定した名称になります。

CPUブレードポートマップ情報(E-Keying情報)の表示

概要

指定されたCPUブレードのポートマッピング情報（E-Keying情報）を表示する。
I/Oブレード使用時はその接続情報もあわせて表示する。

コマンド名

SHOW SERVER PORT MAP

引数

＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ - ＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ , ＜CPUブレード番号＞¦"ALL"

＜CPUブレード番号＞と＜CPUブレード番号＞を’-’（ハイフン)または’,’（カンマ)で連結する場合、’-’（ハイフン)または’,’（カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server port map 16

                    Mezz
Mezz   Mezz         Device      Port          Switch      Switch
Slot   Device       Port        Status        Slot        Slot Port          Device ID
-----  --------     --------    ------------  ----------  ----------  -------------------
16.  Blade:
     Mezz#1    1000BASE-T(2ch)
               Port 1      OK              Slot 3      Port 16     00:30:13:E3:26:9A
               Port 2      OK              Slot 4      Port 16     00:30:13:E3:26:9B
     Mezz#2    1000BASE-T(4ch)
               Port 1      No Connect      Slot 5      Port 16     00:30:13:E3:46:84
               Port 2      No Connect      Slot 6      Port 16     00:30:13:E3:46:85
               Port 3      OK              Slot 7      Port 16     00:30:13:E3:46:86
               Port 4      No Connect      Slot 8      Port 16     00:30:13:E3:46:87

     Embd#1    Embedded Ethernet
               Port 1      No Connect      Slot 1      Port 16     00:30:13:B8:BC:B5
               Port 2      No Connect      Slot 2      Port 16     00:30:13:B8:BC:B6

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレードポートマップ情報表示コマンド実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server port map 16

                    Mezz
Mezz   Mezz         Device     Port          Switch      Switch
Slot   Device       Port       Status        Slot        Slot Port          Device ID
-----  --------     --------   ------------  ----------  ----------  -------------------
16.  Blade:
       Mezz#1       1000BASE-T(2ch)
                    Port 1     OK            Slot 3      Port 16     00:30:13:E3:26:9A
                    Port 2     OK            Slot 4      Port 16     00:30:13:E3:26:9B

       Mezz#2       1000BASE-T(4ch)
                    Port 1     No Connect    Slot 5      Port 16     00:30:13:E3:46:84
                    Port 2     No Connect    Slot 6      Port 16     00:30:13:E3:46:85
                    Port 3     OK            Slot 7      Port 16     00:30:13:E3:46:86
                    Port 4     No Connect    Slot 8      Port 16     00:30:13:E3:46:87

       Embd#1       Embedded Ethernet
                    Port 1     No Connect    Slot 1      Port 16     00:30:13:B8:BC:B5
                    Port 2     No Connect    Slot 2      Port 16     00:30:13:B8:BC:B6

Inter-Blade Link:
                                Connected
Slot                Status      Slot
-----  --------     --------    -------------
16.  Blade:
                    OK          Slot 15

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレードポートマップ情報表示コマンド実行例(I/Oブレード使用時)

初期値

補足

Mezz Slot	ブレード用メザニンカードのスロット番号
Mezz Device	ブレード用メザニンカードのデバイス種別
Mezz Device Port	ブレード用メザニンカードのポート番号
Port Status	ブレード用メザニンカードの該当ポートの状態 OK : 正常 Mismatch : 異常 (E-Keying ミスマッチ) No Connect : スイッチモジュールとの接続がない
Switch Slot	ブレード用メザニンカードの該当ポートに接続されているスイッチモジュールのスロット番号
Switch Slot Port	ブレード用メザニンカードの該当ポートに接続されているスイッチモジュールのポート番号
Device ID	ブレード用メザニンカードの該当ポートの識別情報(MAC/WWN)

CPUブレードステータスの表示

概要

CPUブレードの稼動ステータスを表示する。

表示項目
電源状態 (On or Off or Unknown)
使用電力量
稼動ステータス（OK, CPU failure, or power module failure)
IDランプ状態

コマンド名

SHOW SERVER STATUS

引数

＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ - ＜CPUブレード番号＞¦＜CPUブレード番号＞ , ＜CPUブレード番号＞¦"ALL"

＜CPUブレード番号＞と＜CPUブレード番号＞を’-’（ハイフン)または’,’（カンマ)で連結する場合、’-’（ハイフン)または’,’（カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server status 1

Blade #1 Status:
      Power                    : Off
      Current Wattage used     : 0
      Health                   : OK
      ID LED                   : Off
      BMC-EM Communication     : OK
      E-FUSE Status            : OK
      Diagnostic Status:
            Internal Data              OK
            Management Processor       OK
            I/O Configuration          OK
            Power                      Not Performed
            Cooling                    Not Performed
            Location                   Not Performed
            Device Failure             OK
            Device Degraded            OK

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレードステータス表示コマンド実行例

初期値

補足

Diagnostic Status について

Internal Data	FRU 情報の正当性。OK：正常、Failed：異常（チェックサムエラー等）
Management Processor	BMCFWの状態。OK：正常、Failed：異常
I/O Configuration	E-Keying状態。OK：E-Keying成功、Failed：E-Keying失敗あり
Power	Power。OK：電力状態正常、Failed：電力状態異常
Cooling	冷却状態。OK：クーリングOK、Failed：クーリング異常、Not Performed：チェック未実施
Location	搭載位置状態。OK：搭載位置OK、Failed：搭載位置異常
Device Failure	故障状態。OK：正常動作。Failed：故障、Not Performed：チェック未実施
Device Degraded	デグレード状態。OK：正常動作、Failed：デグレード発生、Not Performed：チェック未実施

CPUブレード電源投入遅延時間の設定

概要

CPUブレードの電源投入を許可するまでの時間を設定する。
本機能は主にFCディスクを使用したSANブートを行う際、FCディスクの起動がブレードの起動よりも遅い場合に使用する。
CPUブレードのAC Link機能を設定した上で、FCディスクの起動時間以上の遅延時間を設定することにより、AC投入後のCPUブレードの電源ONをFCディスクの起動よりも遅らせることができる。

コマンド名

SET SERVER POWERONDELAY

第一引数

<ブレード番号>¦<ブレード番号>-<ブレード番号>¦ <ブレード番号>,<ブレード番号>¦ “ALL”

第二引数

遅延時間 （秒単位）
0 ～ 65535
“0” を指定した場合は、遅延機能が無効であることを意味する。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set server powerondelay 1 864

Blade 1's PowerOnDelayTime changed to 864
1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレード電源投入遅延時間設定コマンド実行例

初期値

0 （遅延機能無効）

補足

本設定を利用してブレードシステム起動時(ACオン時)のブート順序を固定化する場合、設定無効時にブレードが電源ON状態となる時間を確認いただき、同程度の時間(秒)を設定してください。

CPUブレード電源投入遅延時間の表示

概要

CPUブレードの電源投入を許可するまでの設定時間を表示する。

コマンド名

SHOW SERVER POWERONDELAY

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show server powerondelay

Enclosure Manager Uptime = 1173 (sec)

Slot Blade Name                    Delay (sec)
---- ------------------------------ -------------
   1 R2-EE-03                              864
   2 [Subsumed]                              0
   3 [Absent]                                0
   4 [Absent]                                0
   5 [Absent]                                0
   6 [Absent]                                0
   7 [Absent]                                0
   8 [Absent]                                0
   9 Virtual I/O Blade                       0
  10 [Absent]                                0
  11 [Express5800/120Bb-6]                   0
  12 [Absent]                                0
  13 [Absent]                                0
  14 [Absent]                                0
  15 [Absent]                                0
  16 [Express5800/120Bb-d6]                  0

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレード電源投入遅延時間設定表示コマンド実行例

初期値

補足

CPUブレードの一般情報（仮想LCD）を表示

概要
CPUブレードの一般情報(仮想LCD)を表示する。

コマンド名
SHOW SERVER LCD

引数
<スロット番号> ¦ <スロット番号> - <スロット番号> ¦ <スロット番号> , <スロット番号> ¦ "ALL"

実行例

初期値

補足

CPUブレードのIPMIログ(SEL情報)取得

概要
引数で指定したURLへCPUブレードのSEL情報をアップロードする。

コマンド名
UPLOAD SERVER SEL ＜CPUブレード番号＞ ＜URL指定＞

引数
＜CPUブレード番号＞
＜URL指定＞ アップロード先のURLを指定

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> upload server sel 1 tftp://192.168.1.233/sel0101.dat

Enclosure Manager is reading the whole SEL. Please wait few minutes.
Entry Count = 3263
Getting Blade 01 SEL is success.

Blade 1: SEL upload command is success.

1Z34AB7890(Administrator)>
```

CPUブレードのIPMIログ(SEL情報)取得コマンド実行例

初期値

補足
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザーのみである。

CPUブレードの電力制御モードの設定

概要

引数で指定した電力制御モードを設定する
(電力制御モード)
Dynamicモード : CPU負荷に応じてCPUブレードが能動的に電力を制御するモード。
Staticモード : CPU負荷によらず、最大電力にて動作するモード。

コマンド名

SET SERVER POWERCONTROLMODE

引数

<電力制御モード> "DYNAMIC" ¦ "STATIC"

実行例

```
SIGMABLADE-Hv2(Administrator)> set server powercontrolmode dynamic

Changing System PowerControlMode to Dynamic.

Blade 16: PowerControlMode changed successfully.
Blade 15: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 14: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 13: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 12: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 11: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 10: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 9: The Blade is not present.
Blade 8: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 7: PowerControlMode changed successfully.
Blade 6: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 5: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 4: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 3: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 2: The Blade does not support PowerControlMode.
Blade 1: The Blade does not support PowerControlMode.

SIGMABLADE-Hv2(Administrator)>
```

CPUブレード電力制御モード設定コマンド実行例

初期値

Dynamicモード

補足

電力制御モードをサポートしているCPUブレードのみ設定します。
電力制御モードは、搭載しているCPUブレードに即座に反映します。新たにCPUブレードを搭載した時は、本コマンドで設定した電力制御モードをCPUブレードに設定します。
“Dynamic モード”では電力管理の優先度が同じときに、優先的に電力を割り当てます。
“Staticモード”にすると優先度が同じときの優先的電力割り当てはなくなります。
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザーのみである。

CPUブレードの電力制御モードを表示

概要
現在のCPUブレード電力制御モードを表示する

コマンド名
SHOW SERVER POWERCONTROLMODE

引数
なし

実行例

```
SIGMABLADE-Hv2(Administrator)> show server powercontrolmode

Current System PowerControlMode is Dynamic.

Slot  Blade Name             Supported Mode   Current Mode
----- ---------------------- ---------------- ---------------
    1 YAMATO2                N/A              N/A
    2 StorageIO-017          N/A              N/A
    3 HRM-STD-016            N/A              N/A
    4 SRG-STD-008            N/A              N/A
    5 HRM-LW-022             N/A              N/A
    6 HRM-DL2                N/A              N/A
    7 STM-H-166              Dynamic/Static   Dynamic
    8 StIO2-027              N/A              N/A
    9 [Subsumed]
   10 StIO-018               N/A              N/A
   11 SURUGA-STD-006         N/A              N/A
   12 HRM-DL-019             N/A              N/A
   13 HRM-NAS                N/A              N/A
   14 DUMMY-STM-1S-005       N/A              N/A
   15 SURUGA-STD-004         N/A              N/A
   16 STM-1S-9               Dynamic/Static   Dynamic
SIGMABLADE-Hv2(Administrator)>
```

CPUブレード電力制御モード表示コマンド実行例

初期値

補足

スイッチモジュール管理コマンド

スイッチモジュールのシリアルポート経由の接続

概要
指定したスイッチモジュールのシリアルコンソールへ接続する。

コマンド名
CONNECT SWITCH

引数
＜スイッチモジュール番号＞

実行例

```
1Z34AB789012(Administrator)> connect switch 4

NOTICE: This pass-thru connection to the integrated I/O console
is provided for convenience and does not supply additional access
control. For security reasons, use the password features of the
integrated switch.

Connecting to integrated switch 4 at 9600,N81...
Escape character is '<Ctrl>_'

Press [Enter] to display the switch console:


Fabric OS (WH040001120)


WH040001120 console login:
```

スイッチモジュール シリアルコンソール接続コマンド実行例

－　CONNECT SWITCHコマンド メニュー操作

CONNECT SWITCHコマンドは、以下に示す操作をサポートしている。

CONNECT SWITCHコマンドサポート機能：

スイッチモジュール シリアルコンソールを中断してネットワークポート経由の接続へ復帰する。
スイッチモジュール シリアルコンソール接続に関する設定を変更する。
スイッチモジュール シリアルコンソールのシリアル回線上にBreakキーを送出する。

－　メニュー起動方法

スイッチモジュール シリアルコンソール接続中に、キーボードから以下のキー操作を実行するとメニュー画面が起動する。

日本語キーボードの場合：<CTRL>+<SHIFT>+’-’（ハイフン)キーを同時に押下する。

英語キーボードの場合：<CTRL>+<SHIFT>+’_’（アンダーバー)キーを同時に押下する。

キー操作が成功すると、以下に示すように"Command:"から始まるメニューが表示される。

```
WH040001120 console login:
--------------------------------------------------------------------------------
Command: D)isconnect, C)hange settings, send B)reak, E)xit command mode >
```

スイッチモジュール シリアルコンソール操作メニュー

－　シリアルコンソール接続設定変更

上述したメニューにおいて、’C’キーを投入すると、設定変更メニューを表示する。
設定変更メニューでは、以下の設定を変更できる。

現在接続中のセッションに対する設定（エスケープキャラクター使用抑止)。
シリアルコンソール接続設定（ボーレート、フロー制御）

```
--------------------------------------------------------------------------------
Command: D)isconnect, C)hange settings, send B)reak, E)xit command mode > C
Change settings for: L)ocal Session, R)emote Port [Switch Mo], E)xit L
Change Local: D)isable Escape Character, E)xit >
```

現在接続中のセッションに関する操作メニュー

"D)isable Escape Character"を実行すると、現在操作中のシリアルコンソールにおいて、エスケープキャラクターの使用を抑止する。(本設定を行うと、エスケープキャラクター操作を必要とする操作メニューの起動もできなくなりますので、ご注意ください。)

使用抑止の解除：
前述した"操作メニューの起動"のキー操作を、連続して12回実行すると抑止が解除される。

```
--------------------------------------------------------------------------------
Command: D)isconnect, C)hange settings, send B)reak, E)xit command mode > C
Change settings for: L)ocal Session, R)emote Port [Switch Mo], E)xit R
Settings: B)audrate; flow control: N)one H)ardware S)oftware; E)xit > B
Baud: A)9600 B)115200; E)xit >
```

シリアルコンソール接続設定メニュー

本メニューでは、ボーレート、フロー制御の設定を変更できる。

ボーレート：9600bps、115200bps

チェック

EMファームウェアは上記のボーレート設定をサポートしていますが、接続対象のスイッチモジュールで使用可能なボーレートを設定してください。（スイッチモジュールで使用可能なボーレート設定は、接続対象のスイッチモジュールのユーザーズガイドを参照してください。）

フロー制御：None、Hardware（CTS/RTS）、Software（Xon/Xoff）

チェック

フロー制御設定は、接続対象のスイッチモジュールのユーザーズガイドを参照してください。

－　Break キー送出

シリアルコンソール操作が乱れた場合は、Breakキーを送出することで復旧できる場合があります。Breakキーを送出しても復旧できない場合は、"D)isconnect"を実行して一旦シリアルコンソール接続を中断してから、再度接続してください。

```
---------------------------------------------------------------------------------------
Command: D)isconnect, C)hange settings, send B)reak, E)xit command mode > B
Sending BREAK...
```

現在接続中のセッションに関する操作メニュー

－　シリアルソール接続中断

"D)isconnect"を実行すると、現在操作中のシリアルコンソール接続を切断する。

```
WH040001120 console login:
---------------------------------------------------------------------------------------
Command: D)isconnect, C)hange settings, send B)reak, E)xit command mode > D
---------------------------------------------------------------------------------------

1Z34AB789012(Administrator)>
```

現在接続中のセッションに関する操作メニュー

初期値

補足

接続できないまたは接続する必要のないスイッチモジュール／スルーカードもある。（詳しくは、各種スイッチモジュール／スルーカードのユーザーズガイドを参照してください。）
スルーカードは、通常コンソール接続を行う必要のないモジュールです。（スルーカードの種類によっては本書とは異なる仕様が記載されている場合があります。その場合は、各種CPUブレードのユーザーズガイド・取扱説明書等の記載を優先してください。）

スイッチモジュールの電源OFF

概要
指定したスイッチモジュールのDC電源を切断（OFF）する。

コマンド名
POWEROFF SWITCH

引数
＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ - ＜スイッチモジュール番号＞¦
＜スイッチモジュール番号＞ , ＜スイッチモジュール番号＞¦"ALL"

＜スイッチモジュール番号＞と＜スイッチモジュール番号＞を’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）で連結する場合、’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> poweroff switch 1

Powering off switch module 1.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール電源OFFコマンド実行例

初期値

補足

スイッチモジュールの電源ON

概要
指定したスイッチモジュールのDC電源を投入（ON）する。

コマンド名
POWERON SWITCH

引数
＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ - ＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ , ＜スイッチモジュール番号＞¦"ALL"

＜スイッチモジュール番号＞と＜スイッチモジュール番号＞を’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）で連結する場合、’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> poweron switch 1

Powering on switch module 1.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール電源ONコマンド実行例

初期値

補足

スイッチモジュールのUser Assigned Nameの設定

概要
スイッチモジュールに対して、スロット毎に名前を指定する。

コマンド名
SET SWITCH NAME

第一引数
＜スイッチモジュール番号＞

第二引数
<User Assigned NAME>
32文字以内の半角英数字と一部記号で指定する。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set switch name 1 Switch1

Changed the user assigned name for Switch Module #1 to "Switch1".
1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール ユーザアサイン名設定コマンド実行例

初期値
なし

補足
スイッチモジュール名は、搭載スロットに対して付けられる。
搭載スロット位置を変更すると、変更後の搭載スロットに対応した名称になる。

スイッチモジュールのIDランプの制御

概要
指定したスイッチモジュールのIDランプ ボタンを点灯・消灯する。

コマンド名
SET SWITCH UID

第一引数
＜スイッチモジュール番号＞

第二引数
"ON" ¦ "OFF"

実行例

初期値

補足

スイッチモジュール情報の表示

概要

指定したスイッチモジュールの情報を表示する。

表示項目
スイッチモジュールタイプ
製造者名
製品名
製品パーツ番号
製品バージョン
製品シリアル番号
IPアドレス
ファームウェアバージョン
など

コマンド名

SHOW SWITCH INFO

引数

＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ - ＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ , ＜スイッチモジュール番号＞¦"ALL"

＜スイッチモジュール番号＞と＜スイッチモジュール番号＞を’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）で連結する場合、’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show switch info 5

5. <Single> NEC 4Gb Fibre Channel Pass-thru Module for SIGMABLADE-H
      URL:[N/A]
      P/N:406740-B21  S/N:1A567B9EF2    SerPortRoute:N/A EthPortRoute:N/A
      Name:Switch5                      IP:N/A
      PrtDis:PowerOn   TmpSen:Present   JS2Conn:Absent   EthExtIf:Absent
      EthEMIf:Absent   Baud:9600bps     SerExtIf:Present SerEMIf:Absent
      ISMIC FW Ver:01.02                Internal FW Ver:Not Available

1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール情報表示実行例

初期値

補足

SerPortRouteおよびEthPortRouteについて
(SerPortRoute: 内部シリアルインタフェースの方向、EthPortRoute：内部Etherインタフェースの方向)
EM　本インタフェースが EMカードの内部インタフェースに接続
Ext　本インタフェースがスイッチモジュールの外部インタフェースに接続
N/A　本インタフェースは未サポート

スイッチモジュール一覧の表示

概要

搭載されているスイッチモジュールの一覧を表示する。

表示項目
スイッチモジュールタイプ
製造者名
電源状態
Health状態
IDランプ状態

コマンド名

SHOW SWITCH LIST

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show switch list

Slot Switch Type     Manufacturer       Power Health    UID
---- ----------------- -------------------- ------ ---------- ----
   1 [Absent]
   2 [Absent]
   3 Ethernet          NEC                Off    OK         Off
   4 [Absent]
   5 Fibre Channel     NEC                On     OK         Off
   6 [Absent]
   7 [Absent]
   8 [Absent]

Totals: 2 switch modules installed, 1 powered on.

1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール一覧表示実行例

初期値

補足

スイッチモジュール マップ情報(E-Keying情報)の表示

概要
指定されたスイッチモジュールのポートマッピング情報（E-Keying情報）を表示する。

コマンド名
SHOW SWITCH PORT MAP

引数
＜スイッチモジュール番号＞¦＜スイッチモジュール番号＞ - ＜スイッチモジュール番号＞¦
＜スイッチモジュール番号＞ , ＜スイッチモジュール番号＞¦"ALL"

＜スイッチモジュール番号＞と＜スイッチモジュール番号＞を’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）で連結する場合、’-’（ハイフン）または’,’（カンマ）の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
> show switch port map all

      Status     Size       Technology Product Name
      -------    ----       ------------ ----------------
    8: <absent>

    7: <absent>

    6: <absent>

    5: OK         Single     PCIe       Virtual I/O Switch
       Port      1  2  3  4  5  6  7  8  9  10 11 12 13 14 15 16
       Status                           OK OK
       Blade                            9  10
       Mezz/Nic                         2  2
       Port                             1  1

    4: <absent>

    3: <absent>

    2: <absent>

    1: OK         Single   Ethernet  1Gb Intelligent  L2  Switch
       Port      1  2  3  4  5  6  7  8  9  10 11 12 13 14 15 16
       Status                              OK
       Blade                               10
       Mezz/Nic                            NI
       Port                                1

1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュール ポートマップ情報(E-Keying情報)表示コマンド実行例

初期値

補足

Port※1	スイッチモジュールのポート番号
Status	スイッチモジュールの当該ポートの状態。OK：正常 （E-Keying がマッチ ）、Mismatch：異常(E-Keyingがミスマッチ)、No Connect：正常(スイッチモジュールとブレード用メザニンカード間に接続がない)
Blade	スイッチモジュールの当該ポートに接続されているCPUブレード番号
Mezz/Nic	スイッチモジュールの当該ポートに接続されているブレード用メザニンカード番号または標準スロット(LAN専用)に対応した番号
Port※2	スイッチモジュールの当該ポートに接続されているブレード用メザニンカードのポート番号

※1 「Status」の上側に表示される「Port」
※2 「Mezz/Nic」の下側に表示される「Port」

スイッチモジュール ステータスの表示

概要

スイッチモジュールの稼動ステータスを表示する。

表示項目
稼動状態
温度状態
スイッチモジュール上のCPU状態
STATUSランプ状態
IDランプ状態
電源状態
消費電力
E-FUSE状態

コマンド名

SHOW SWITCH STATUS

引数

<スイッチモジュール番号>¦<スイッチモジュール番号> - <スイッチモジュール番号>¦<スイッチモジュール番号> , <スイッチモジュール番号>¦"ALL"

<スイッチモジュール番号>と<スイッチモジュール番号>を’-’(ハイフン)または’,’(カンマ)で連結する場合、’ -’(ハイフン)または’,’(カンマ)の前後にスペースを挿入すること。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show switch status 3

Switch Module #3 Information:
        Status          : OK
        Thermal         : OK
        CPU Fault       : OK
        Health LED      : Off
        ID LED          : Off
        Powered         : On
        Power on Watts  : 48
        Power off Watts : 5
        E-FUSE Status   : OK
        Diagnostic Status:
                Internal Data           Not Performed
                Management Processor    OK
                Thermal Warning         OK
                Thermal Danger          OK
                I/O Configuration       OK
                Power                   Not Performed
                Device Failure          OK
                Device Degraded         OK

1Z34AB7890(Administrator)>
```

スイッチモジュールステータス表示実行例

初期値

補足

Diagnostic Status について

Internal Data	FRU 情報の正当性。OK：正常、Failed：異常（チェックサムエラー等）
Management Processor	スイッチモジュール上の管理プロセッサ状態。OK：正常、Failed：異常
Thermal Warning	温度警告状態。OK：正常温度、Failed：警告温度、Not Performed：チェック未実施
Thermal Danger	温度異常状態。OK：正常温度、Failed：異常温度、Not Performed：チェック未実施
I/O Configuration	E-Keying状態。OK：E-Keying成功、Failed：E-Keying失敗あり
Power	Power。OK：電力状態正常、Failed：電力状態異常、Not Performed：チェック未実施
Device Failure	故障状態。OK：正常動作。Failed：故障、Not Performed：チェック未実施
Device Degraded	デグレード状態。OK：正常動作、Failed：デグレード発生、Not Performed：チェック未実施

EM管理コマンド

EMカード固有名の設定

概要
EMカードに固有名称を設定する。

コマンド名
SET EM NAME<スロット番号> < EMカード名>

第一引数
<スロット番号>（省略可能）
ブレード収納ユニットに搭載される最大2台のEMカードのうち、当該EMカードのスロット番号を指定する。
指定可能な範囲：1、2
本引数を省略した場合は、現在ログイン中のEMカードに対する指定となる。

第二引数
<EMカード名>
32文字以内の半角英数字と一部記号で指定する。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set em name EM1

Enclosure Manager name changed to EM1.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMカード名変更例

初期値
EM-(EMカードのMACアドレス)
(例) EM-001004010077

補足

EMカードのIDランプ操作

概要
EMカードのIDランプを点灯・消灯する。

コマンド名
SET EM UID

第一引数
＜スロット番号＞（省略可能）
ブレード収納ユニットに搭載される最大2台のEMカードのうち、当該EMカードのスロット番号を指定する。
指定可能な範囲：1、2
本引数を省略した場合は、現在ログイン中のEMカードに対する指定となる。

第二引数
"ON" ¦ "OFF"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set em uid 1 ON

Enclosure Manager ID LED is on.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMカードIDランプ操作例

初期値

補足

EMカード情報の表示

概要
EMカードの情報を表示する。

コマンド名
SHOW EM INFO

引数
＜スロット番号＞ | "ALL"（省略可能）
ブレード収納ユニットに搭載される最大2台のEMカードのうち、当該EMカードのスロット番号を指定する。
指定可能な範囲：1、2
本引数を省略した場合は、現在ログイン中のEMカードに対する指定となる。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show em info all

NEC Enclosure Manager #2 information:
        Product Name    : SIGMABLADE-H EM Card
        Product P/N     : 253280-001
        Product S/N     : 12345678901234
        UUID            : 0912345678901234
        Manufacturer    : NEC
        EM HW Version   : 1.00
        EM FW Version   : 01.50


NEC Enclosure Manager #1 information:
        Product Name    : SIGMABLADE-H EM Card
        Product P/N     : 407296-001
        Product S/N     : 12345678901234
        UUID            : 0912345678901234
        Manufacturer    : NEC
        EM HW Version   : 1.00
        EM FW Version   : 01.50

EM-001004010077(Administrator)>
```

EMカード情報表示例

初期値

補足

EMカード ステータスの表示

概要

EMカードのステータスを表示する。

表示項目
EMカード名称
アクティブ/スタンバイ
IDランプ状態
EMカード状態
EM言語タイプ

コマンド名

SHOW EM STATUS

引数

<スロット番号> ¦ "ALL" （省略可能）
ブレード収納ユニットに搭載される最大2台のEMカードのうち、当該EMカードのスロット番号を指定する。
指定可能な範囲：1、2
本引数を省略した場合は、現在ログイン中のEMカードに対する指定となる。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show em status all

NEC Enclosure Manager #2 Status:
      Name          : EM-0016355E5C2E
      Role          : Standby
      UID           : Off
      Status        : OK
      Language      : JAPANESE


NEC Enclosure Manager #1 Status:
      Name          : EM-0016355E5C10-1
      Role          : Active
      UID           : Off
      Status        : OK
      Language      : JAPANESE

Redundancy status : NORMAL

1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMカード ステータス情報表示例

初期値

補足

Redundancy status について

NORMAL	EMカードが正常に二重化された状態である。
DEGRADED	EMカードが2台搭載されているが、二重化された状態ではない。
FAILED	もう1台のEMカードの異常を検出した。
UNKNOWN	もう1台のEMカードの状態を取得できない。
NOT REDUNDANT	EMカードが1台搭載された状態で、二重化された状態ではない。

EMカード言語タイプ設定

概要
EMカードが使用する言語タイプを設定する。
言語タイプは、SNMPトラップやE-Mail通報において使用される通報メッセージの日本語／英語切り替えなどで使用される。(EM CLIのメッセージ出力等が指定した言語タイプで表示されるわけではない。)

コマンド名
SET EM LANGUAGE

引数
＜言語タイプ＞
指定可能なタイプ：
"JAPANESE"
"ENGLISH"

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set em language ENGLISH

Enclosure Manager language type changed to ENGLISH.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMカード言語タイプ設定表示例

初期値
"JAPANESE"

補足
設定した言語タイプは、"SHOW EM STATUS"コマンドで参照可能である。

マネジメントLANポートリンクダウン時の自動スイッチオーバー機能の有効化

概要

EMカードのマネジメントLAN ポートのリンクダウンが発生した場合に、EM カードを自動的にスイッチオーバー（アクティブEM カードとスタンバイEM カードの切り替え）する機能を有効に設定する。

本機能を有効にすると、アクティブEM カード のマネジメントLAN のリンク状態がダウン状態に移行した場合に、自動的にスイッチオーバーを実行する。

スイッチオーバーを行うには、① EM カードが二重化構成状態であること、および ② スタンバイEM カード側のマネジメントLAN ポートのリンク状態がアップ状態（正常状態）であること、の両方の条件が成立している必要がある。

コマンド名

ENABLE EMLANLINKDOWN TAKEOVER

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> enable emlanlinkdown takeover

EMLANLINKDOWN TAKEOVER is now enabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

マネジメントLANポートリンクダウン時の
自動スイッチオーバー機能の有効化コマンドの実行例

初期値

Disable

補足

本機能は、コマンドを投入して正常終了した時点より有効となる。
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATOR の権限をもつユーザのみである。

マネジメントLANポートリンクダウン時の自動スイッチオーバー機能の無効化

概要
EMカードのマネジメントLANポートのリンクダウンが発生した場合に、EMを自動的にスイッチオーバー（アクティブEMカードとスタンバイEMカードの切り替え）する機能を無効に設定する。

コマンド名
DISABLE EMLANLINKDOWN TAKEOVER

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> disable emlanlinkdown takeover

EMLANLINKDOWN TAKEOVER is now disabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

マネジメントLANポートリンクダウン時の
自動スイッチオーバー機能の無効化コマンドの実行例

初期値
Disable

補足
本機能は、コマンドを投入して正常終了した時点より有効となる。
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATOR の権限をもつユーザのみである。

マネジメントLANポートリンクダウン状態を確定するまでの待ち時間の設定

概要
EMカードのマネジメントLANポートの監視において、リンク状態がアップ状態からダウン状態に変化した後に、ダウン状態を確定するまでの待ち時間を設定する。

リンクダウン期間が、ここで指定した時間内であれば、自動スイッチオーバー(アクティブEMカードとスタンバイEMカードの切り替え)は行われない。

コマンド名
SET EMLANLINKDOWN WAIT

引数
待ち時間間 （秒単位）
1 ～ 60

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set emlanlinkdown wait 5

EMLANLINKDOWN WAIT changed to 5
1Z34AB7890(Administrator)>
```

マネジメントLANポートリンクダウン状態確定までの待ち時間指定コマンドの実行例

初期値
5 秒

補足
本機能は、コマンドを投入して正常終了した時点より有効となる。
本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATOR の権限をもつユーザのみである。

EMネットワーク情報の表示

概要
EMのネットワーク情報を表示する。

表示例
EMカードのマネジメントLANポートのIPアドレス
EMカードのマネジメントLANポートのネットマスク
EMカードのマネジメントLANポートのゲートウェイアドレス
EMカードのマネジメントLANポートのDNSアドレス（Primary/Secondary）
EMカードのマネジメントLANポートのMACアドレス
EMカードのマネジメントLANポートのリンク状態
EMカードのマネジメントLANポートリンクダウン発生時の自動スイッチオーバー機能の有効・無効設定
EMカードのマネジメントLANポートのリンクダウン確定までの待ち時間設定
EMカードのマネジメントLANポートのフローティングIPアドレス（Active/Standby）

コマンド名
SHOW EM NETWORK

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show em network

NEC Enclosure Manager #1  Network Information:
        IP Address          :  192.168.12.94
        Netmask             :  255.255.0.0
        Gateway Address     : 0.0.0.0
        Primary DNS         : 0.0.0.0
        Secondary DNS       : 0.0.0.0
        MAC Address         : 00:18:FE:35:62:17
        Link Status         : Active

NEC Enclosure Manager #1 Lan Linkdown Takeover setting:
        Lan Linkdown Takeover  : Disabled
        Lan Linkdown Wait      : 5 seconds

NEC Enclosure Manager Floating IP Address:
        EM IP Address (Active)  :  192.168.12.92
        EM IP Address (Standby) :  192.168.12.93

1Z34AB7890(Administrator)>
```

EMネットワーク情報表示例

初期値

補足
Link Statusの表示項目はEMマネジメントLANポートがリンクアップしているときは「Active」、リンクダウンしているときは「Not Active」となる。

DianaScope制御コマンド

DianaScope Gatewayパスワード設定

概要
DianaScope Gatewayのパスワードを設定する。
(このパスワードはDianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）で認証キーとして使用する。)

コマンド名
SET DSGPASSWORD

引数
<パスワード>
最大16字までの文字列で指定する。

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set dsgpassword guest1

Changed DSG password.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

DianaScope Gatewayパスワード設定例

初期値
"guest"

補足
DianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）では、サーバ(EM カード)登録時に認証キーとして本コマンドで設定したパスワード(設定していない場合は初期値“guest”)を入力してください。
変更したパスワードはEMカードを(EMカードが2枚実装されている場合は2枚とも)再起動した後に有効になります。ただし、EMファームウェア レビジョン14.xx以降をお使いの場合は、変更は即座に反映され、再起動の必要はありません。

DianaScope Gatewayパスワード表示

概要

DianaScope Gatewayのパスワードを表示する。
（このパスワードはDianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）で認証キーとして使用する。）

コマンド名

SHOW DSGPASSWORD

引数

なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show dsgpassword

DSG Password:          guest
1Z34AB7890(Administrator)>
```

DianaScope Gatewayパスワード表示例

初期値

補足

DSGステータス設定

概要
DianaScope Gateway（DSG）のステータスを設定する。

コマンド名
SET DSGSTATE

引数
"1"(Enable)、"0"(Disable)

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set dsgstate 0

Changed DSG State.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

DSGステータス設定例

初期値
"1"(Enable)

補足
DianaScope ManagerまたはESMPRO/SM（Ver.5以降）による監視を行わない場合、"SET DSGSTATE 0"を実行してください。これにより、EMカードはDianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）から発行されるコマンドに応答しないようになります。
DianaScope ManagerまたはESMPRO/SM（Ver.5以降）による監視を再開するときは、"SET DSGSTATE 1”を実行してください。これにより、EMカードはDianaScope ManagerおよびESMPRO/SM（Ver.5以降）から発行されるコマンドに応答するようになります。
設定変更はEMカードを(EMカードが2枚実装されている場合は2枚とも)再起動した後に有効になります。

DSGステータス表示

概要
DianaScope Gateway（DSG）のステータスを表示する。

コマンド名
SHOW DSGSTATE

引数

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show dsgstate

DSG Status:0
1Z34AB7890(Administrator)>
```

DSGステータス表示例

コマンド実行により表示される数字は以下の意味。
” 1"(Enable)、"0"(Disable)

初期値

補足

SIGMABLADEモニター制御コマンド

OSDの設定を初期化

概要
OSDの設定を初期化する。

コマンド名
CLEAR SIGMABLADEMONITOR OSD

引数
なし

実行例

初期値

補足

SIGMABLADEモニターのパスワードを無効

概要
SIGMABLADEモニターのパスワードを無効にする。

コマンド名
DISABLE SIGMABLADEMONITOR PASSWORD

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

SIGMABLADEモニターのパスワードを有効

概要
SIGMABLADEモニターのパスワードを有効にする。

コマンド名
ENABLE SIGMABLADEMONITOR PASSWORD

引数
なし

実行例

初期値
Enable

補足

SIGMABLADEモニターのリセット

概要
SIGMABLADEモニターのリセットを行う。

コマンド名
RESTART SIGMABLADEMONITOR

引数
なし

実行例

初期値

補足

SIGMABLADEモニターのバックライトオフ時間を設定

概要
SIGMABLADEモニターのバックライトオフまでの時間を設定。

コマンド名
SET SIGMABLADEMONITOR BACKLIGHT

引数
10進の数字で指定する。範囲0～9 単位:分
0は常にONとなる。

実行例

初期値
1分

補足

SIGMABLADEモニターパスワードの設定

概要
SIGMABLADEモニターのパスワード設定を行う。

コマンド名
SET SIGMABLADEMONITOR PASSWORD

引数
4桁の数字

実行例

初期値
"0000"

補足

SIGMABLADEモニターのLCDの表示内容の表示

概要
SIGMABLADEモニターのLCDの表示内容を表示する。

コマンド名
SHOW SIGMABLADEMONITOR LCD

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show sigmablademonitor lcd

LCD message:
        SYSTEM STATUS
        NORMAL

1Z34AB7890(Administrator)>
```

SIGMABLADEモニターのLCDの表示内容の表示例

初期値

補足

SIGMABLADEモニターのバックライトオフ設定時間の表示

概要
SIGMABLADEモニターのバックライトオフまでの時間を表示する。

コマンド名
SHOW SIGMABLADEMONITOR BACKLIGHT

引数
なし

実行例

初期値

補足

SIGMABLADEモニターパスワード設定の表示

概要
SIGMABLADEモニターのパスワード設定(有効/無効)を表示する。

コマンド名
SHOW SIGMABLADEMONITOR PASSWORDSTATE

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show sigmablademonitor passwordstate

Password State: 1
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SIGMABLADEモニターパスワード設定の表示例

コマンド実行により表示される数字は以下の意味。
"1"(Enable)、"0"(Disable)

初期値

補足

SIGMABLADEモニターファームウェアリビジョンの表示

概要
SIGMABLADEモニターのファームウェアリビジョンを表示する。

コマンド名
SHOW SIGMABLADEMONITOR VERSION

引数
なし

実行例

初期値

補足

SIGMABLADEモニターファームウェアのアップデート

概要
SIGMABLADEモニターのファームウェアをアップデートする。

コマンド名
UPDATE SIGMABLADEMONITOR IMAGE

引数
＜URL指定＞

実行例

初期値

補足

E-Mail通報機能コマンド

E-Mail通報機能の無効化

概要
E-Mail 通報機能をDisable に設定する。

コマンド名
DISABLE MAILALERT

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> disable mailalert

E-Mail Alert is now disabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

E-Mail通報機能の無効化コマンド実行例

初期値
Disable

補足

送信メールサーバとのSMTP認証の無効化

概要
通報メールを送信する際のSMTP 認証をDisable に設定する。

コマンド名
DISABLE MAILALERT SMTPAUTH

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> disable mailalert smtpauth

SMTP authentication on sending e-mail alert is now disabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SMTP認証 無効化コマンド実行例

初期値
Disable

補足

E-Mail通報機能の有効化

概要
E-Mail 通報機能をEnableに設定する。

コマンド名
ENABLE MAILALERT

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> enable mailalert

E-Mail Alert is now enabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

E-Mail通報機能の有効化コマンド実行例

初期値
Disable

補足

送信メールサーバとのSMTP認証の有効化

概要
通報メールを送信する際のSMTP認証をEnable に設定する。

コマンド名
ENABLE MAILALERT SMTPAUTH

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> enable mailalert smtpauth

SMTP authentication on sending e-mail alert is now enabled.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SMTP認証 有効化コマンド実行例

初期値
Disable

補足
サポートしているSMTP認証方式は以下の通り
・PLAIN
・LOGIN
・CRAM-MD5

通報先メールアドレス(その1)の設定

概要
通報メールの通報先メールアドレスを設定する。(3つまで設定可能。その内の1つめ)

コマンド名
SET MAILALERT ADDRESS1

引数
＜メールアドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert address1 test1@iw.cnt.jp.nec.com

test1@iw.cnt.jp.nec.com set as primary address of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報先メールアドレス(その1)の設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
＜メールアドレス＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

通報先メールアドレス(その2)を設定

概要
通報メールの通報先メールアドレスを設定する。(3 つまで設定可能。その内の2 つめ)

コマンド名
SET MAILALERT ADDRESS2

引数
＜メールアドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert address2 test2@iw.cnt.jp.nec.com

test2@iw.cnt.jp.nec.com set as secondary address of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報先メールアドレス(その2)の設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
＜メールアドレス＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

通報先メールアドレス(その3)を設定

概要
通報メールの通報先メールアドレスを設定する。(3つまで設定可能。その内の3つめ)

コマンド名
SET MAILALERT ADDRESS3

引数
＜メールアドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert address3 test3@iw.cnt.jp.nec.com

test3@iw.cnt.jp.nec.com set as tertiary address of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報先メールアドレス(その3)の設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
＜メールアドレス＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

通報メールの通報元メールアドレス設定

概要
通報メールの通報元メールアドレス(メールヘッダの From:に記載)を指定する。

コマンド名
SET MAILALERT FROMADDR

引数
＜メールアドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert fromaddr testfrom@iw.cnt.jp.nec.com

testfrom@iw.cnt.jp.nec.com set as from address of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報メールの通報元メールアドレス設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
＜メールアドレス＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

通報メールの通報レベル設定

概要
E-Mail 通報で通知するイベントレベルを設定する。
(指定したレベル以上のイベントを通知します。)

コマンド名
SET MAILALERT LEVEL

引数
＜通報レベル＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert level information

Alert level of e-mail alerts has been set to Information.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報レベル設定コマンド実行例

初期値
Warning (警告レベル以上を通知)

補足
＜通報レベル＞は下記のいずれかの文字列で指定する
・Information: 情報レベル以上を通知
・Warning: 警告レベル以上を通知(デフォルト設定)
・Fatal: 異常レベル以上を通知

通報メールの返信先アドレス設定

概要
通報メールの返信先アドレス(メールヘッダのReply-To:に記載)を設定する。

コマンド名
SET MAILALERT REPLYTO

引数
＜メールアドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert replyto testreplyto@iw.cnt.jp.nec.com

testreplyto@iw.cnt.jp.nec.com set as reply-to address of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報メールの返信先アドレス設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
＜メールアドレス＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

送信メールサーバとのSMTP認証で使用するパスワードの設定

概要
通報メールにおける、送信メールサーバとのSMTP 認証のパスワードを設定する。
(SMTP 認証のパスワードは、暗号化して記録されます。)

コマンド名
SET MAILALERT SMTPAUTH PASSWORD

引数
<パスワード>
SMTP 認証で使用するパスワードを指定

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert smtpauth password test_pass

test_pass set as password for SMTP authentication on sending e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SMTP認証で使用するパスワードの設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)

補足
<パスワード>の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

送信メールサーバとのSMTP認証で使用するユーザ名の設定

概要
通報メールにおける、SMTP 認証のユーザ名を指定する。

コマンド名
SET MAILALERT SMTPAUTH USER

引数
＜ユーザ名＞
SMTP 認証で使用するユーザ名を指定

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert smtpauth user TEST

TEST set as user name for SMTP authentication on sending e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

SMTP認証で使用するユーザ名の設定コマンド実行例

初期値
"" (未設定)
補足
＜ユーザ名＞の最大文字数は127 文字 (2 バイトコード(日本語)は使用できません)

通報メールのSMTPポート番号の設定

概要
通報メールを送信するためのSMTP のポート番号を設定する。

コマンド名
SET MAILALERT SMTPPORT

引数
＜ポート番号＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert smtpport 8888

8888 set as port number of SMTP server for e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報メールのSMTPポート番号の設定コマンド実行例

初期値
25

補足

通報メールのSMTPサーバのIPアドレスの設定

概要
通報メールを送信するためのSMTP サーバのIP アドレスを設定する。

コマンド名
SET MAILALERT SMTPSERVER

引数
＜IP アドレス＞

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert smtpserver 192.168.1.2

192.168.1.2 set as SMTP server for e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報メールのSMTPサーバのIPアドレスの設定コマンド実行例

初期値
0.0.0.0

補足

通報メールの件名の設定

概要
通報メールの件名(メールヘッダのSubject:に記載)を設定する。

コマンド名
SET MAILALERT SUBJECT

引数
＜件名＞
メール通報のタイトルを指定

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> set mailalert subject test_subject

test_subject set as subject of e-mail alerts.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

通報メールの件名の設定コマンド実行例

初期値
""（未設定）

補足
通報メールはここで設定した件名にイベントのレベルとID番号を追加して送信される。
＜件名＞の最大文字数は127文字(2バイトコード(日本語)は使用できません)

E-Mail通報に関する各種設定値の表示

概要
E-Mail 通報に関する各種設定値を表示する。

コマンド名
SHOW MAILALERT

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> show mailalert

E-Mail Alert Configuration:
        Status                  : Enabled
        Alert Level             : Warning
        To Address1             : test1@iw.cnt.jp.nec.com
        To Address2             : test2@iw.cnt.jp.nec.com
        To Address3             : test3@iw.cnt.jp.nec.com
        From Address            : testfrom@iw.cnt.jp.nec.com
        Reply-To Address        : testreplyto@iw.cnt.jp.nec
        Subject                 : test_subject
        SMTP Server IP Address : 192.168.1.2
        SMTP Server Port        : 8888
        SMTP Authentication   : Disabled
                User Name         : TEST
                Password          : ********

1Z34AB7890(Administrator)>
```

E-Mail通報 各種設定値表示コマンド実行例

初期値

補足
SMTP Authentication のPassword 項目は、パスワードが設定されている場合は「********」と表示される。

E-mailテスト通報

概要
E-mail 通報機能による、テスト通報を行う。

コマンド名
TEST MAILALERT

引数
なし

実行例

```
1Z34AB7890(Administrator)> test mailalert

A test mail was send to registered addresses.
1Z34AB7890(Administrator)>
```

E-mailテスト通報コマンド実行例

初期値

補足
あらかじめE-mail 通報について適切な設定を行った後に、本コマンドを実行してください。
(ただし、「ENABLE MAILALERT」コマンド等でE-Mail 通報機能を有効にしない状態でも、本コマンドによるテスト通報は実行可能です。)

ログ採取コマンド

EMカードが保持する各種ステータス情報、ログ情報の採取

概要

引数で指定したURLへEMファームウェアが保持する各種情報をアップロードする。
また、引数にALLを指定することによりIPMIログ(SEL情報)も取得できる。

対象情報
装置ステータス、構成情報（SHOW ALLコマンドの結果と同等）
Config情報（SHOW CONFIGコマンドの結果と同等）
システムイベントログ（syslog）
その他EM情報（プロセス情報、メモリ使用率など）
IPMIログ(SEL情報)

コマンド名

LOGCOLLECT

引数

<URL>　アップロード先のURLを指定
<OPT>　オプション指定（省略可能）
ALL を指定することによりIPMIログ(SEL情報)も取得

実行例

初期値

補足

本コマンドを使用できるのは、ADMINISTRATORの権限をもつユーザーのみである。

付　録

タイムゾーン

set dateコマンドではタイムゾーンとして以下のパラメータが指定可能です。
CET, EET, EST, GMT, HST, JST, MET, MST, PRC, UCT, UTC

set timezoneコマンドでは上記に加え、以下のパラメータが指定可能です。

Etc
GMT, GMT+0, GMT+1, GMT+10, GMT+11, GMT+12, GMT+2, GMT+3, GMT+4, GMT+5, GMT+6, GMT+7, GMT+8, GMT+9, GMT-0, GMT-1, GMT-10, GMT-11, GMT-12, GMT-13, GMT-14, GMT-2, GMT-3, GMT-4, GMT-5, GMT-6, GMT-7, GMT-8, GMT-9, GMT0